

Teaching and Learning
Management

FACTBOOK 2020



山口大学
教育・学生支援機構
教学マネジメント室

目次

CONTENTS

I. はじめに

巻頭言	05
-----	----

II. 大学全体レベル

1. 文部科学省・大学教育再生加速プログラム(AP)6年間の成果及び各種指標の達成度	09
【1】 指標の公表	10
【2】 「山口大学生コンピテンシー」に関する学修成果可視化	14
【3】 「学びの好循環」の創出	15
2. FD・SD活動の枠組と実績	16
【1】 山口大学におけるFD・SD	16
【2】 大学間連携によるFD・SD	18

III. 学位プログラムレベル

1. YU CoB CuSの導入	21
2. 国際総合科学部におけるYU CoB CuSの成果	24
3. 卒業生・修了生満足度調査結果の概要	25

IV. 授業科目レベル

1. 授業評価の結果(全学)	31
【1】 学生授業評価の実施状況	31
【2】 教員授業自己評価の実施状況	31
【3】 全学共通の質問項目に関する分析	33
【4】 共通教育に関する学生授業評価結果	38
2. 遠隔講義に関するアンケート結果	41

V. 参考資料(『教学マネジメント指針』(中央教育審議会大学分科会)別紙2・3)

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報について(別紙2)	47
情報公表について(別紙3)	51

I はじめに

巻頭言

山口大学は、2020年4月に教学マネジメント室を創設しました。同年1月に公表された『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会）に沿って、大学全体レベル・学位プログラムレベル・授業科目レベルの各レベルにおける教学マネジメントを強化すべく、教育・学生支援機構にもとに新しい組織を設置し、その取組を進めています。特に、同指針では、教学マネジメントを支える基盤として「FD・SDの高度化と教学IR体制の確立」を求めていることに着目し、エビデンスに基づく教育マネジメントを進める観点から、教育・学修に関するデータの収集・分析・共有に関し、今まで以上に力を注いでいく必要があります。

そこで、教学マネジメント室では、新たに、『教学マネジメント FACTBOOK』を作成し、山口大学の教育・学修に関する基本データを整理・共有する取組に着手しました。本冊子は、その第一歩に当たり、令和2年度教育戦略経費の採択を受けて発刊するものです。

これまでの山口大学の教育改革は、2014年度「文部科学省・大学教育再生加速プログラム（AP）」の採択、2015年度「文部科学省・地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の採択、さらには、2015年度創設の国際総合科学部における YU CoB CuS（Yamaguchi University Competency-Based Curricular System）の開発などをエンジンにして取り組むことで、高い評価を受けてきました。さらに、2020年度のコロナ禍においては、全学的な遠隔講義アンケート実施、さらには、教育DX（Digital Transformation）でも先駆的な取組を進めています。

どのような場面にあっても、教育成果と学修成果を把握・確認しながら、さらなる充実を図っていくことが高等教育機関として求められています。『教学マネジメント FACTBOOK』の刊行を契機に、今後とも、教学マネジメントの取組に、ご理解とご支援を賜れば幸いです。

2021年3月

山口大学 教育・学生支援機構 教学マネジメント室

II

大学全体レベル

II 大学全体レベル

大学全体レベルとして、2014年度から取り組んできた文部科学省・大学教育再生加速プログラム（AP）の指標を中心に紹介する。この取組は、中間評価・事後評価ともに最高の「S評価」を受けている。

1. 文部科学省・大学教育再生加速プログラム（AP）6年間の成果及び各種指標の達成度

AP事業に取り組んだ2014年度から2019年度の6年間は、我が国の高等教育の大きなうねりの中にあつた。AP事業採択時において、中央教育審議会『大学教育の質的転換答申』を契機とした「アクティブ・ラーニング」という言葉が席卷し、どの大学でも試行錯誤の日々が続いた。そのような状況にあつて、本学が開発した「ALポイント認定制度」という各授業科目のAL度をシラバスに可視化する仕組みは画期的であり、その後、多くの大学で、同様の取組が導入されるようになった。

「ALポイント認定制度」の最大のインパクトは、ALポイントという数値化された指標を得ることができたということである。本学では、同制度の導入と順調な学内展開によって、各授業科目におけるAL度の傾向分析に始まり、ALベストティーチャー表彰審査の指標として活用されたほか、最近では、学修成果の規定要因分析等に活かすことができるようになった。すなわち、本学におけるアクティブ・ラーニングの特徴やアクティブ・ラーニングを通じた学修成果を検証する重要なエビデンスとなっている。まさに、データ駆動型教育改善の象徴の一つとなっている。さらには、ALポイントという量的指標と対照するように、アクティブ・ラーニングの実態をインタビュー調査等で質的に把握するアプローチも確立でき、多くの事例を『Teaching & Learning Catalog』『Teaching & Learning Album』という実践集、模擬授業型ワークショップ、ALベストティーチャー動画集として、教職員・学生に広く周知してきた。このような質的アプローチを通して、教員同士が相互に学び合う環境を醸成することができた。その証拠として、「アクティブ・ラーニングを行う専任教員数（割合）」が35.8%（2014年度）から87.3%（2019年度）に倍以上となった。

AP事業の大きな成果として、学修行動・学修到達度調査と学修成果アセスメントの定着がある。AP事業で目指した「山口大学生コンピテンシー」の学修成果可視化の取組では、外部テストを初め幾つかの方法を実施しながら、最終的に、本学独自の学修行動・学修到達度調査を開発し、1年次・3年次の経年比較や「山口大学生コンピテンシー」に関する学修成果アセスメントを実現した。学生の自発的な学修促進のためのアセスメント文化の提供に向けて、大学職員を主な対象とした「ラーニングアドバイザー養成講座」を創設したことも大きな成果である。さらに、学修成果に関する各種データが蓄積されていく中で、高等学校関係者や企業関係者との対話を通じた学修成果のチューニングを行うことにも着手できた。

ALの組織的推進を通して、本学の教育理念に明文化されていた「学生主体」「学生参画」の精神が学内外の教育・学修の場面に確実に広がってきた。その教育成果や学修成果を把握・分析・可視化するという環境を押し上げたのも本事業の取組である。これらの取組は、大学教育・高等学校教育・大学入試の一体的改革と相まって、高大連携や社会連携による人材育成の充実へと道を拓けるため、「FD・SDワークショップ」や「共育ワークショップ」

という場づくりが大きな貢献を果たしてきた。

AP 事業を通して、大学全体レベルでの「山口大学生コンピテンシー」、学位プログラムレベルでの「DP・CP」、授業科目レベルでの「シラバスや成績評価の充実」を図る中で、2020年1月公表『教学マネジメント指針』に沿った更なる取組に繋げている(図表I-1参照)。AP事業の取組は2020年4月に創設された「教学マネジメント室」に引き継がれ、人的・経費的な措置を行い、これまでの成果を継続している。補助期間中に育んだ AP 採択校同士の信頼関係、高等教育機関間との連携を活かし、新たな要素を交えながら、本学の更なる教育革新を測っている。

レイヤー	カテゴリ	学習目標	アセスメント手法
大学全体レベル (マクロ)	山口大学生コンピテンシー (教育理念)	山口大学生コンピテンシー (教育理念)	学修行動・学修到達度調査 授業での振り返り
学位プログラムレベル (ミドル)	ディプロマ・ポリシー(DP)	ディプロマ・ポリシー(DP)	YU CoB CuS 振り返りシートほか
授業科目レベル (ミクロ)	到達目標	到達目標	学生授業評価

図表 I - 1 山口大学における教学マネジメントの各レベルにおける学習目標及びアセスメント手法

【1】指標の公表

AP 事業における必須指標及び本学の独自指標について、2014～2019年度の実績値、さらには、2016～2019年度の目標値は図表I-2のとおりであり、定量的な数値目標の達成状況について、事業期間6年間を通して順調に推移してきた。特に、必須指標である「アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合」は最終目標値70%に対して「76.2%」、同じく必須指標である「アクティブ・ラーニングを行う専任教員数」は最終目標値68.4%に対して「87.3%」と、共通教育と専門教育の垣根を超えて、学士課程教育全体に広がり、最終目標値を超えて、2018年度から更に数字を伸ばした。このことは、より多くの教員がアクティブ・ラーニングに関わることになったことを如実に示している。

その背景には、アクティブ・ラーニング型授業の優れた教育実践を表彰する「ALベストティーチャー表彰制度」が創設され、2016年度から「5科目」をコンスタントに表彰する取組が進み、本学の教員に大きなインセンティブを与えていることが挙げられる。表彰されたALベストティーチャーの優れた授業実践は、AL型授業実践集『Teaching & Learning Catalog』に記事掲載されるだけでなく、FD・SDワークショップにおいて模擬授業を披露し、生(ライブ)の授業実践を他の教員に提供する機会が与えられる。このような機会提供は、ALベストティーチャーにとって誇りとなるものであるとともに、学内の若手教員や高等学校教員が集い、優れた授業実践を学ぶ場として好評を得ている。ALベストティーチャーをエンジンとしたAL推進の好循環は定着し、AP事業終了後も継続して取り組むことがAP事業推進委員会にて了承された。

一方、このような全学的なAL推進に伴う学生の学びについては、学生1人当たりのアクティブ・ラーニング科目受講数が2014年度「2.4科目」から2019年度「15.7科目」、アクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間(1週間当たり)が2014年度「1.69時間」から2019年度には「10.42時間」と大幅に増加するに至っている。また、正課科目だけでなく、AL型の正課外教育プログラム(スチューデント・リーダー・プログラムなど)が2014

年度「17プログラム」から令和元年度「31プログラム」に増える中で、学生は、正課科目と正課外教育プログラムを通して、主体的な学びを深めていることが分かる。

さらに、アクティブ・ラーニングを中心とした全学的な授業改善等の取組が功を奏し、学生の授業満足率が2014年度「4.21」から毎年度増加しながら、2019年度「4.37」となっており、大きな成果と言えるであろう。

学生の学修成果の可視化・把握の取組では、学修行動調査・学修到達度調査の全学実施のほか、ルーブリック開発については、AP事業開始当初の探究型科目「山口と世界」コモンルーブリック開発に始まり、2016年度以降は、医学部医学科・保健学科の専門教育（チュートリアル教育、看護系実習など）や地域フィールド学修（サービスラーニング、アントレプレナー教育など）において、ルーブリックを活用する実践事例が増加したほか、スタディ・スキルに関するルーブリック（ライティングスキル、プレゼンテーションスキル、情報探索スキル）を開発するなど、ルーブリック活用の実績も順調に伸びてきた。

さらに、AL推進及び教学マネジメント強化に関するFD・SD研修について、全学研修会のほか、各学部主催FD・SD研修を積極的に行い、年間計34回、1,334名の参加者を数え、専任教員が年間2回程度は必ず受講する環境が整っている。令和元年度には、従来のSDセミナーに代えて企画した「大学マネジメントセミナー」を引き続き開催し、80名近くの参加者を得て、教職協働における諸課題について議論を行い、大学マネジメント人材の専門性向上のための知識や能力について共有する機会となった。また、2019年11月～12月にかけて、「ラーニング・アドバイザー養成講座」を山口県内高等教育機関の教職員・大学院生を対象を広げて開講し、延べ14名が受講した。本講座は、学生の「学びの好循環」に貢献できる学修支援者としてのスキルや態度を学び、全2回の講座を受講・修了した者に「ラーニング・アドバイザー認定証」を授与するもので、これまで3年間の実施で、ラーニング・アドバイザー認定者は計24名（うち2名は他大学教職員）となった。AP事業で企画実施してきたFD・SDワークショップ、大学マネジメントセミナー、ラーニング・アドバイザー養成講座、スチューデント・リーダー・プログラム（SLP）は、これまでの成果が認められ、AP事業終了後も内容を一層充実させながら継続実施する。

以上のとおり、本事業が目指しているアクティブ・ラーニングの組織的推進、それに伴う学生の授業外学修時間の増加、さらには、学修成果可視化や教職員が一体となった資質向上の取組が順調に進み、多くの教員と学生がアクティブ・ラーニングに関わり、満足感を持ちながら教育成果と学修成果を積み重ねていることが分かる。

図表 I - 2 定量的な数値目標の達成状況

	2014年度	2015年度	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
	実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
【テーマ I】◆学生の主体的な学びを促進するアクティブ・ラーニングの実施										
アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合	13.6%	52.1%	60.0%	65.1%	65.0%	72.4%	68.0%	73.5%	70.0%	76.2%

II 大学全体レベル

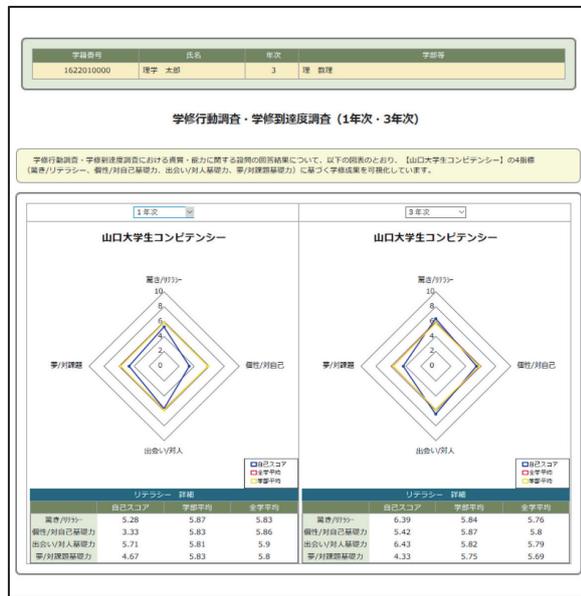
【必須指標】											
アクティブ・ラーニング科目のうち、必修科目の割合 【必須指標】	93.2%	79.3%	60.0%	71.3%	62.0%	66.8%	63.0%	68.0%	65.0%	77.4%	
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合 【必須指標】	45.3%	81.9%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
学生1人当たりアクティブ・ラーニング科目受講数 【必須指標】	2.4 科目	10.8 科目	11 科目	13.5 科目	12 科目	15.5 科目	12 科目	14.7 科目	13 科目	15.7 科目	
学生1人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間(1週間当たり) 【必須指標】	1.69 時間	7.19 時間	5.00 時間	9.10 時間	5.00 時間	10.42 時間	6.00 時間	9.62 時間	6.00 時間	10.42 時間	
アクティブ・ラーニング型の正課外教育プログラムの実施数(全学部生対象に限る) 【独自指標】	17プログラム	18プログラム	15プログラム	25プログラム	20プログラム	25プログラム	23プログラム	25プログラム	25プログラム	31プログラム	
【テーマI】◆アクティブ・ラーニング推進のための専門集団の形成											
アクティブ・ラーニングを行う専任教員数 【必須指標】	35.8%	73.1%	51.3%	76.2%	67.2%	83.0%	67.8%	80.2%	68.4%	87.3%	
アクティブ・ラーニングに関するFD・SD研修実施数、参加者数 【独自指標】	15回 464人	25回 968人	15回 500人	22回 950人	18回 550人	18回 787人	20回 600人	20回 880人	20回 600人	20回 763人	
アクティブ・ラーニング推進のためのAL推進チームの形成(FDコーディネータ養成) 【独自指標】	3人	10人	10人	21人	21人	22人	21人	23人	21人	22人	
アクティブ・ラーニングにおける優秀な教育実践を表彰するALベスト・ティーチャー賞授与数 【独自指標】	0科目	0科目	2科目	5科目	4科目	5科目	5科目	5科目	5科目	5科目	
【テーマII】◆学修成果可視化モデル構築のための多角的取組の実施											
授業満足度アンケートを実施し	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

ている学生の割合【必須指標】										
上記アンケートにおける授業満足率【必須指標】	4.21	4.25	4.2	4.26	4.3	4.30	4.3	4.32	4.3	4.37
学修行動調査の実施率【必須指標】	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
学修到達度調査の実施率【必須指標】	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
成績評価基準の平準化を目的としたルーブリック評価の導入実績数【独自指標】	9件	12件	15件	17件	25件	28件	30件	31件	30件	35件
学生の授業外学修時間（1週間当たり）【必須指標】	13.04時間	13.58時間	6.50時間	13.71時間	6.50時間	16.40時間	7.00時間	16.02時間	7.00時間	15.46時間
学生の主な就職先への調査【必須指標】	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
【テーマII】◆学修成果測定を支える教学マネジメントの強化										
退学率【必須指標】	1.3%	1.1%	2.0%	1.3%	2.0%	1.4%	2.0%	1.5%	2.0%	1.7%
プレースメントテストの実施率【必須指標】	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
教学マネジメント強化のためのFD・SD研修実施数、参加者数【独自指標】	18回 1,046人	11回 693人	5回 300人	10回 652人	8回 400人	9回 589人	10回 500人	14回 657人	10回 500人	14回 571人
ラーニング・アドバイザー及び高度専門職（UEA：University Education Administrator）の配置【独自指標】	3人	3人	3人	3人	4人	11人	5人	21人	5人	24人

【2】「山口大学生コンピテンシー」に関する学修成果可視化

「山口大学生コンピテンシー」(『山口大学教育理念』に明記された「山口大学生として卒業時に身に付けておくべき力(コンピテンシー)」)の達成度について、従来、外部テスト(PROGテスト)により測定していたが、**2019年度より本学独自開発の「学修行動・学修到達度調査」による測定と可視化に切り替え、マークシート回答形式で自立的に実施・運営できる環境を整えた**(2020年度はウェブアンケート形式で実施)。

1年次・3年次で実施している学修行動・学修到達度調査において、山口大学生コンピテンシーの4指標(「驚き(リテラシー)」「個性(対自己基礎力)」「出会い(対人基礎力)」「夢(対課題基礎力)」)の達成度を測る大問について整理を行い、その結果を修学支援システムでレーダーチャート表示(図表I-3参照)できるようにした。山口大学教育理念と汎用的能力の対応一覧を併せて掲載(図表I-4参照)しており、アセスメントを行う1年次必修科目(「知の広場」)において、リフレクションやメタ認知を働かせた自律的学修の促進に役立っている。



図表 I - 3 「山口大学生コンピテンシー」の可視化画面

『山口大学教育理念』では、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の意義や、教養教育・専門教育において育成される汎用的能力を明示しています。それらを下の表のように整理することにより、山口大学生として身に付けていることが期待される汎用的能力【山口大学生コンピテンシー】を明確化しています。

山口大学生コンピテンシー (山口大学生に期待される汎用的能力)			
山口大学教育理念		対応する資質・能力に関するキーワード	
【驚き】 世界や社会にいつも驚きを感じ、過去・現在・未来に関心を抱き続けます	教養教育【驚き】 専門教育【チャレンジし、解決する力】	驚きを人切にし、「自ら」が考え・判断・表現・行動・発言する能力を養います。 あらゆる問題や困難にチャレンジし、解決する力を養います。	リテラシー ・情報収集力 ・情報分析力 ・課題発見力 ・構想力
【個性】 他人と競争し、打ち負かすのではなく、自分を発見し、はぐくみ、世界でたったひとつの存在になります。	教養教育【個性】 専門教育【自分を活かす力】	個性を大切に、心身ともに豊かな人間性として「笑」を発見するところをはぐくみます。 専門家としての知識や能力を身につけ、自分を活かす力を養います。	対自己基礎力 ・感情制御力 ・自信創出力 ・行動持続力
【出会い】 自分のつちに閉じこもらず、自分を超えてひとに出会い、出会いははぐくみ、つながりを築きます。	教養教育【出会いと交流】 専門教育【専門分野を超えて考え行動する力】	出会いと交流の中で、歴史と伝統を重んじ、異文化を受け入れるところを養い、地域社会と国際社会への責任感や義務感を抱きます。 専門性を活かし、さらに分野を超えて、人々の幸せや社会・環境全体のあるべき姿について、考え行動する力をはぐくみます。	対人基礎力 ・親和力 ・協働力 ・統率力
【夢】 過去を受け継ぎ、現実をみすえながら、夢を発見し、夢をはぐくみ、夢をかたちにします。	教養教育【夢】 専門教育【世界にはばたいて活躍する力】	夢を描き続け、自らが生涯を通じての「知の探求者」になる「礎」を築きます。 国を超えた多くの人々と出会い、世界にはばたいて活躍する力をはぐくみます。	対課題基礎力 ・課題発見力 ・計画力 ・実践力

図表 I - 4 「山口大学生コンピテンシー」に関する学生向け説明画面

【3】「学びの好循環」の創出

AP 事業では、本学の大学教育全体に、学修者中心の考え方を定着させることを目的に、ALを起点とした「学びの好循環」の創出に努めてきた。

学修行動・学修到達度調査や YU CoB CuS による学修成果に関する量的データの把握に努めるとともに、『Teaching & Learning Catalog』に掲載される「優れた AL 型授業の特徴や手法」や「学生たちの学びのプロセスや成長実感」を一覧整理すること、学修支援の担い手である職員を中心としたラーニング・アドバイザー養成講座で表出化される現状分析と課題解決方策などを分類化するなどの質的データの蓄積(図表 I - 5 参照)を大事にしてきた。諸制度の定着度を測る最終的な物差しは、学生・教員・職員の生の声であると考えからである。学生・教員・職員のアンクルから見える観点や関与(エンゲージメント)を継続的に収集・分析しながら、「学びの好循環」の底上げを更に進めていきたい。



図表 I - 5 『Teaching & Learning Catalog』一覧
及びラーニング・アドバイザー養成講座による成果物

本学の取組の特徴の一つである「共育ワークショップ」を通じたステークホルダーや学生の意見を取り入れる仕組みについても毎年度創意工夫しながら実施し、対話の場づくりの中心軸が「教職学協働」から「高大連携・社会連携」に広がりを見せた(図表 I - 6 参照)。今後も、「共育ワークショップ」を充実させ、山口大学の教育力強化に活かしていく。

図表 I - 6 AL 型授業等に関連した FD・SD ワークショップ取組一覧

年度	ワークショップテーマ
2014 年度	教育理念「発見・はぐくみ・かたちにする」を考える
2015 年度	「あったらいいな、こんな授業」(シラバスづくり)
2016 年度	「学生 FD サミット 2017 春」のアイデア提案
2017 年度	大学と高等学校による授業協奏曲(模擬授業と対話)
2018 年度	社会で必要とされるコンピテンシー(高大連携・社会連携)
2019 年度	学びによる成長のための評価(直接評価と間接評価)

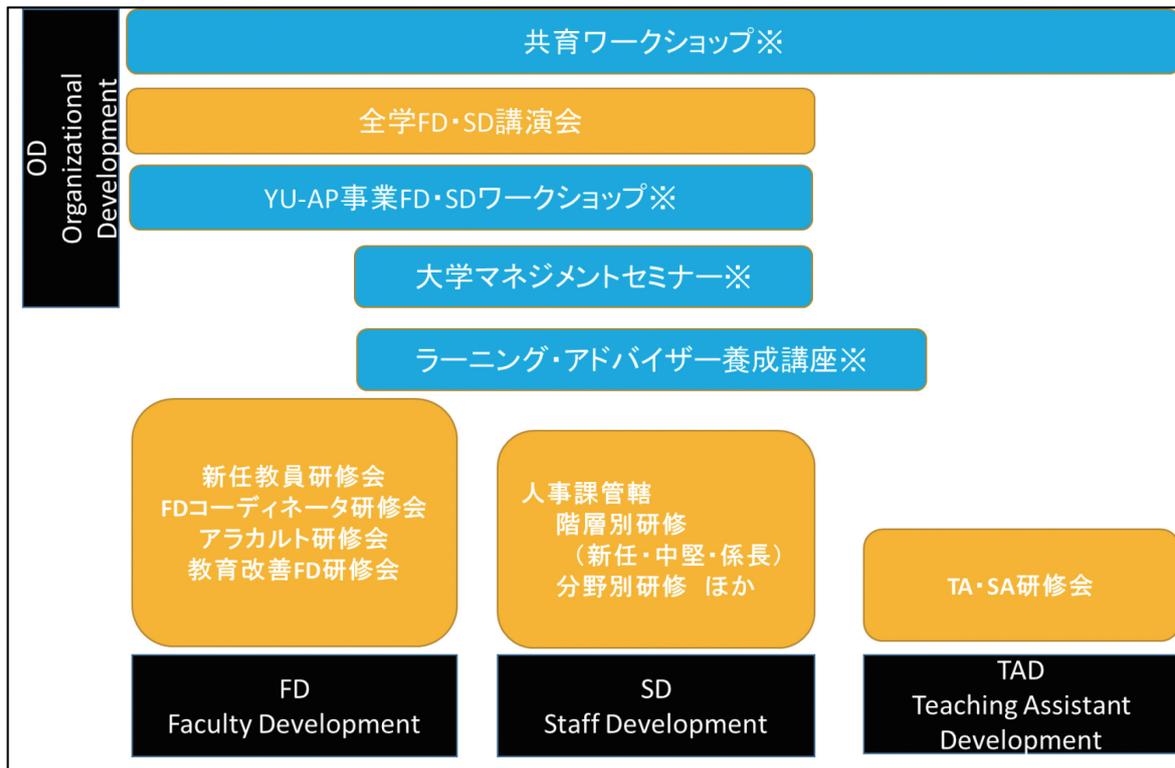
2. FD・SD 活動の枠組と実績

【1】山口大学における FD・SD

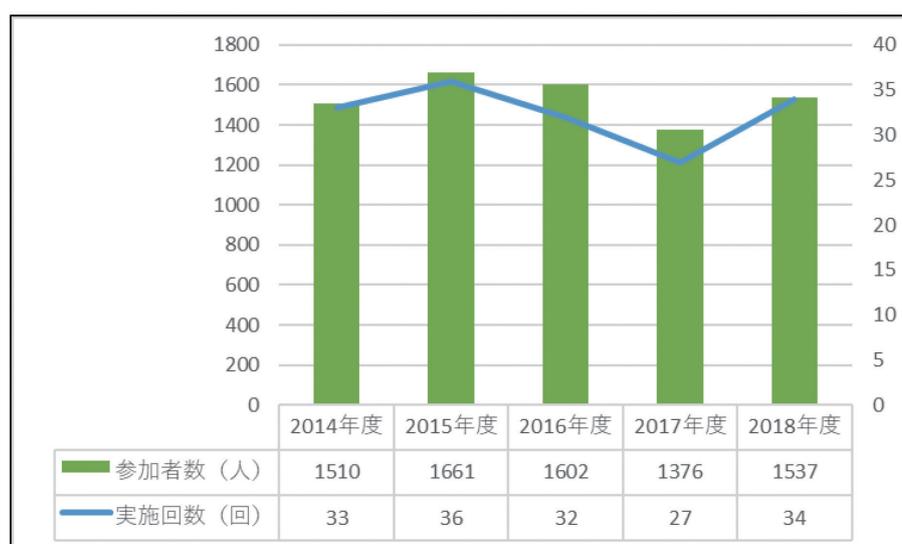
山口大学では、FD (Faculty Development)、SD (Staff Development)、TAD (Teaching Assistant Development)、OD (Organizational Development) を区分しながら、毎年度の FD・SD 活動を計画・実施してきた (図表 I - 7 参照)。

具体的には、FD 活動として、新任教員研修会 (年 2 回)、FD コーディネータ研修会、全学 FD・SD 講演会、アラカルト研修会 (各学部・研究科による選択制)、教育改善 FD 研修会 (全学統一テーマによる各学部・研究科主催) といった既存のプログラムに加え、アクティブ・ラーニング推進及び学修成果可視化を目的とした FD・SD ワークショップを行い、強化している。SD 活動として、人事課が管轄する階層別研修・分野別研修に加え、大学マネジメントセミナーやラーニング・アドバイザー養成講座を行い、強化している。そのほか、TAD 活動として TA・SA 研修会、OD 活動として教職員・学生参加型の共育ワークショップを行っている。

2014 年度以降、過去 5 年間の FD・SD 研修の実施回数・参加者数をまとめたものが図表 I - 8 であるが、毎年度 30 回程度の実施と 1,300~1,600 名程度の参加者を数えている。また、本学では、上記の研修以外に、研究費適正使用や個人情報保護に関する教職員向け研修会を全員受講義務化している。



図表 I - 7 山口大学 FD・SD・TAD・OD の体系図
(なお、※印が AP 事業において企画開発したもの)



図表 I - 8 FD・SD 研修の実施回数・参加者数の推移（2014～2018 年度）

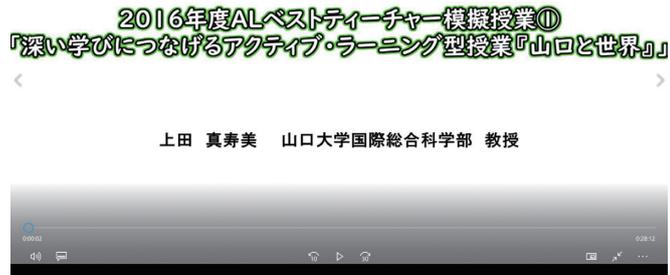
教育・学生支援機構で計画立案した AL 推進のための施策を教学組織に広げ、定着させる役割として **FD コーディネータが各学部に配置**されている。FD コーディネータ研修会をはじめ、従来から開催されている学部主催の教育改善 FD 研修会、アラカルト研修会のコーディネートのほか、新たなるに開発した FD・SD ワークショップにおける事例発表などに貢献してきた。過去 6 年間の FD・SD ワークショップのテーマは図表 I - 9 のとおりである。

図表 I - 9 AL 型授業等に関連した FD・SD ワークショップ取組一覧

開催年度	ワークショップのテーマ
2014 年度	①ループリック事例報告ワークショップ（『山口と世界』授業実践など）
2015 年度	①大人数授業、クリッカー利用による AL 実践紹介 ②AL 教室及びタブレット機器による AL 実践紹介
2016 年度	①PBL（Project-Based Learning）授業設計 ②サービ斯拉ーニング授業設計と学修評価
2017 年度	①AL ベストティーチャー模擬授業型ワークショップ ②ループリック活用による学修評価
2018 年度	①AL ベストティーチャー模擬授業型ワークショップ ②DP 達成度可視化と学修ポートフォリオ
2019 年度	①学生調査の見方、活かし方 ②AL ベストティーチャー模擬授業型ワークショップ

上記の AL 推進体制の整備とともに、2016 年度に創設された AL ベストティーチャー表彰制度を効果的に活用し、同表彰を受けた教員の優れた授業実践をインタビュー取材して冊子化した『Teaching & Learning Catalog』を 2016 年度から発刊し、全教員・1 年生全

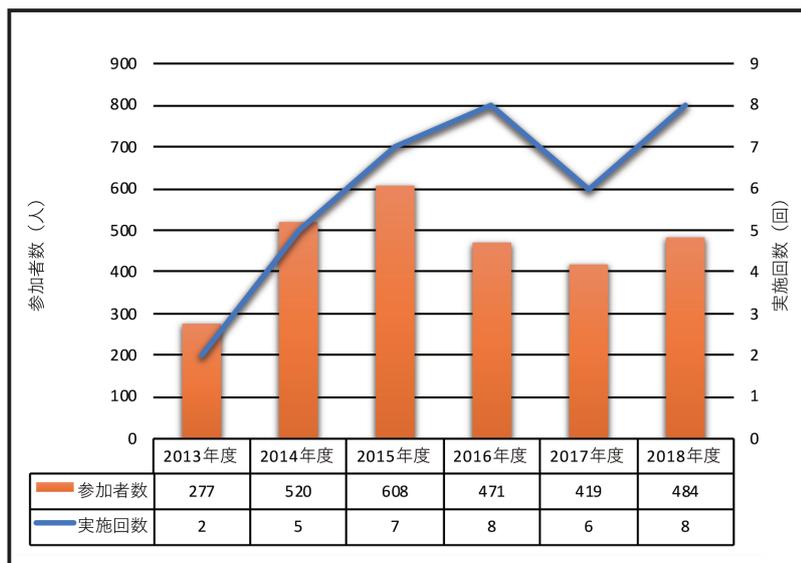
員に配布するほか、山口県内高等学校に提供している。2019年度には、過去4年間の冊子を総括した『Teaching & Learning Album』を刊行した。さらには、学生スタッフの協力を得て、ALベストティーチャーによる模擬授業動画を編集し、コンテンツ・アーカイブシステム(図表I-10参照)を構築し、全教職員が閲覧可能な環境を整えた。



図表 I - 10 AL ベストティーチャー模擬授業動画集 (一例)

[2] 大学間連携によるFD・SD

大学リーグやまぐち(旧・大学コンソーシアムやまぐち)では、FD・SD部会設置によるFD・SD研修の充実が図られたほか、AP事業やCOC+事業(文部科学省・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業)に関連したFD・SD研修が山口県内の大学間連携を活用しながら展開するようになった。山口大学が主催し、大学リーグやまぐち加盟機関に募集案内し、参加実績のあるFD・SD研修の実施回数や参加者数の2013年以降の推移は図表I-11のとおりである。実施回数が2013年度の2件から4倍に増えるとともに、参加者数も2014年度・2015年度に急激に上昇し、一時は2013年度に比べ2倍以上の600名を超える参加者数を記録した後、2018年度には500名弱の参加者数で推移している。特に、2017年度に開催した山口大学・大学リーグやまぐち主催「大学マネジメントセミナー2017inやまぐち」では、大学リーグやまぐち加盟機関による教職協働の取組を紹介するポスターセッションを企画し、加盟機関すべてと山口県庁がポスター発表に参加した。この企画を通して、地域全体での教職協働の取組の底上げの機運を高めることができた。



図表 I - 11 大学間連携を通じたFD・SD活動実績 (2013~2018年度, 山口大学主催分に限る)

III

学位プログラムレベル

III 学位プログラムレベル

山口大学では、学位プログラムレベルの取組として、DP（ディプロマ・ポリシー）達成度を可視化する仕組みとして YU CoB CuS（Yamaguchi University Competency-Based Curricular System）の全学部導入を推進してきた。2015 年度に創設された国際総合科学部では、YU CoB CuS による DP 達成度スコアを卒業要件化して導入したが、その他の学部では、卒業要件とはせずに、DP 達成度の可視化を通じた学生自身の振り返りと教員による修学指導に活用することを目的とした。

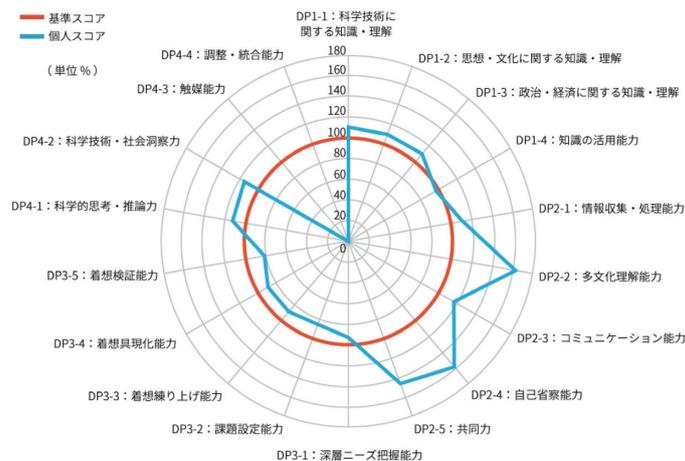
1. YU CoB CuS の導入

YU CoB CuS には、「【1】数値による重み付けカリキュラムマップ」「【2】DP 達成度の可視化」「自己振り返りと修学指導」という三段階（三要件）がある。YU CoB CuS の導入の大前提となる「数値による重み付けカリキュラムマップ」の設計にあたっては、専門分野の特性に応じて大きく異なる。本学においては、国際総合科学部のような「①コンピテンシーベースの学位プログラム」、医学部や教育学部などのような「②専門職養成の学位プログラム」、理学部、農学部、工学部などのような「③ディシプリンベースの学位プログラム」の3類型に分類することができる。

図表 II - 1 国際総合科学部における YU CoB CuS（カリキュラムマップ（抜粋））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			知識・理解				コミュニケーション				課題解決				科学的思考・推論力				調整・統合能力	合計	
			必修	選択	自由	科学技術に関する知識・理解	思想・文化に関する知識・理解	政治・経済に関する知識・理解	情報収集・処理能力	知識の活用能力	多文化理解能力	コミュニケーション能力	自己省察能力	共働能力	深層ニーズ把握能力	課題設定能力	着想練り上げ能力	着想具現化能力	着想検証能力	科学的思考・推論力	科学技術・社会洞察力			触媒能力
DP 6項目の合計スコア					3,670				3,215				2,095				2,820				11,800			
基準スコア					1,015	810	625	1,220	1,115	580	625	440	455	555	385	400	400	355	1,010	810	500	500	11,800	
基礎科目	国際総合科学総論	1前①	2	20	20	20	20															200		
	科学技術史	1前①	1	25	15	10	15	5														100		
	科学技術哲学	1後②	1	25	15	10	15	5														100		
	環境と人間	1前①	1	25	10	15	15	5														100		
	食と生命	1前②	1	25	10	15	15	5														100		
	社会と医療	1前①	1	25	10	15	15	5														100		
	運動健康科学	1後③	1	25	10	10	15	10															100	
	哲学	1前①	1	5	45	10	25	15															100	
	歴史学	1前②	1	5	45	10	25	15															100	
	人間の発達と育成（宗教学）	1前①	1	5	45	10	25	15															100	
	文化の継承と創造（文化人類学）	1後③	1	5	45	10	25	15															100	
	人間の発達と育成（言語学）	1前②	1	5	45	10	25	15															100	
	文化の継承と創造（表象文化論）	1後④	1	5	45	10	25	15															100	
	政治学	1後④	1	5	10	40	15	15															100	
	現代アジア論	1前②	1	5	10	40	15	15															100	
	経済と法（経済学）	1前①	1	5	10	40	15	15															100	
	経済と法（経営学）	1後③	1	5	10	40	15	15															100	
	経済と法（法学）	1後④	1	5	10	40	15	15															100	
	社会学	1後③	1	5	10	40	15	15															100	
	加重点（19科目）	30	0	0	250	400	415	370	215	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140	170	0	0	2,095	
科学技術リテラシー科目	自然科学 I	1後③	1	40			10	10														100		
	自然科学 II	1後④	1	40			10	10														100		
	ロジカルシンキング入門	1前②	1	10									15	15	15	15	15	10	5			100		
	ロジカルシンキング演習	1前③	1	10									15	15	15	15	15	10	5			100		
	統計学入門 I	1前①	1	10	5	5	10	10	5	5	5	5	10	5	5	5	5	10				100		
	統計学入門 II	1前②	1	10	5	5	10	10	5	5	5	5	10	5	5	5	5	10				100		
	統計学演習 I	1前①	1	10	5	5	10	10	5	5	5	5	10	5	5	5	5	10				100		
	統計学演習 II	1前②	1	10	5	5	10	10	5	5	5	5	10	5	5	5	5	10				100		
	デザイン科学入門 I	1前①②	1	10										15	15	15	15	15	10	5		100		
	デザイン科学入門 II	1後③④	1	10										15	15	15	15	15	10	5		100		
	デザイン科学演習 I	1前①	1	10										15	15	15	15	15	10	5		100		
	デザイン科学演習 II	1前②	1	10										15	15	15	15	15	10	5		100		
	デザイン科学演習 III	1後③	1	10										15	15	15	15	15	10	5		100		
	デザイン科学演習 IV	1後④	1	10										15	15	15	15	15	10	5		100		
	科学技術と社会（知的財産入門 I）	1後①	1	20	5	5	15	5														20	30	
	知的財産入門 II	2前①	1	20	5	5	15	5															20	30
	知的財産演習 I	1後④	1	20	5	5	15	5															20	30
	知的財産演習 II	2前②	1	20	5	5	15	5															20	30
	情報セキュリティ・モラル	1前②	1	30	10	10	10	20															20	100
	情報リテラシー演習	1前①	1	15			10	20	10	15	5	5											20	100
ICT演習 I	1後③	1	15			10	20	10	15	5	5											20	100	
ICT演習 II	1後④	1	15			10	20	10	15	5	5											20	100	
物質・エネルギー・環境 I	2前①	1	30	5	5	10	10															25	15	
物質・エネルギー・環境 II	2前②	1	30	5	5	10	10															25	15	
保健・医療・福祉 I	2前①	1	30	5	5	10	10															25	15	
保健・医療・福祉 II	2前②	1	30	5	5	10	10															25	15	
生物多様性 I	2前①	1	30	5	5	10	10															25	15	
生物多様性 II	2前②	1	30	5	5	10	10															25	15	
バイオテクノロジー I	2前①	1	30	5	5	10	10															25	15	
バイオテクノロジー II	2前②	1	30	5	5	10	10															25	15	
加重点小計（30科目）	-	30	0	0	595	90	90	240	240	50	65	35	35	160	140	140	140	140	560	280	0	0	3,900	

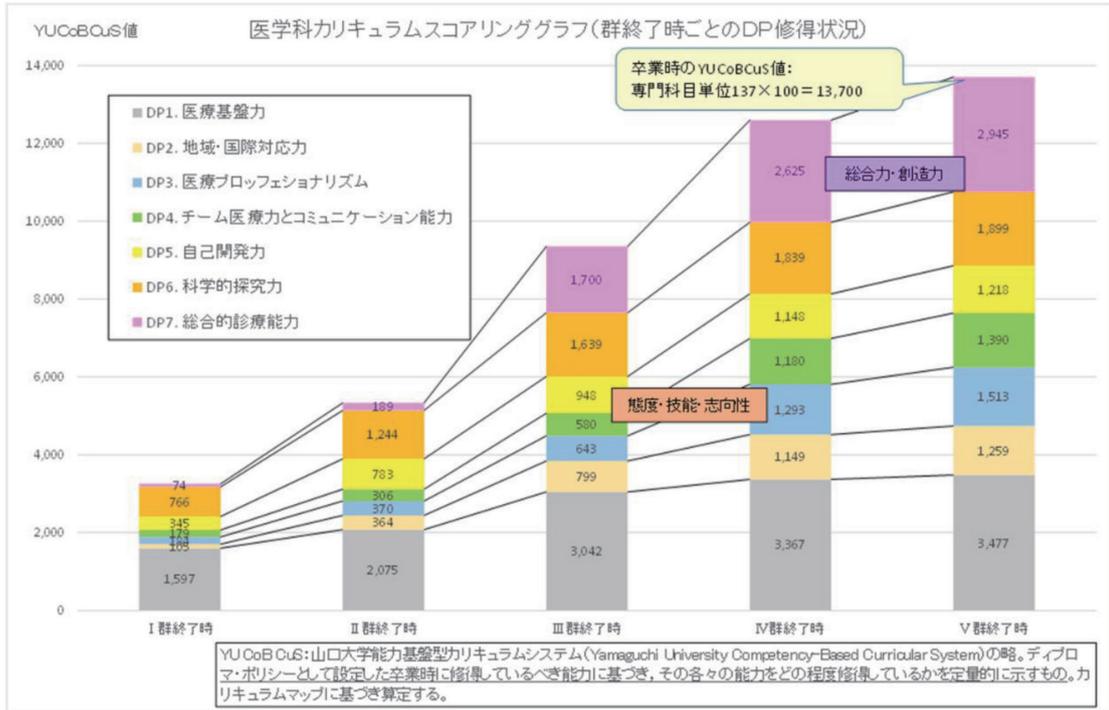
凡例：各授業科目の、各DPへの貢献度の総和を100としたときに
 大きく関わる（50～20程度）
 関わる（20～10程度）
 多少関わる（10～5程度）



図表 II - 2 国際総合科学部における YU CoB CuS (レーダーチャート)
(出典 : http://gss.yamaguchi-u.ac.jp/yu_cobcus/)

図表 II - 3 医学部医学科における YU CoB CuS (カリキュラムマップ (抜粋))

NO	群	ユニット名	1. 医療基盤力	2. 地域・国際対応力	3. 医療プロフェッショナルリズム	4. チーム医療力とコミュニケーション能力	5. 自己開発力	6. 科学的探究力	7. 総合的診療能力	単位数	合計	
1	#N/A	医学入門1	20	20	40	40	40	20	20	2		
2	#N/A	医学入門2	20	40	40	40	40	10	10	2		
3	I	2	医療概論・倫理序説	10	10	30	30	10	10	0	1	100
4	III	4	医療安全学	5	5	15	10	0	0	15	0.5	50
5	III	4	医療安全テュートリアル	8	8	16	16	8	8	16	0.8	80
6	III	4	臨床倫理テュートリアル	6	6	12	12	6	6	12	0.6	60
7	III	4	行動医学テュートリアル	6	6	12	18	6	6	6	0.6	60
8	I	2	基礎解剖生理学序説	30	0	0	0	5	15	0	0.5	50
9	I	2	基礎生化学序説	30	0	0	0	5	15	0	0.5	50
10	I	2	基礎生命実験医学	30	0	0	0	5	15	0	0.5	50
11	I	2	発生学	30	0	0	0	5	15	0	0.5	50
12	I	2	医用統計学・医用AI学	25	0	0	0	10	15	0	0.5	50
13	II	3	システムバイオインフォマティクス	15	0	0	0	15	20	0	0.5	50
14	I	2	外皮筋骨格系	60	0	0	0	10	30	0	1	100
15	I	2	循環・呼吸器系	78	0	0	0	13	39	0	1.3	130



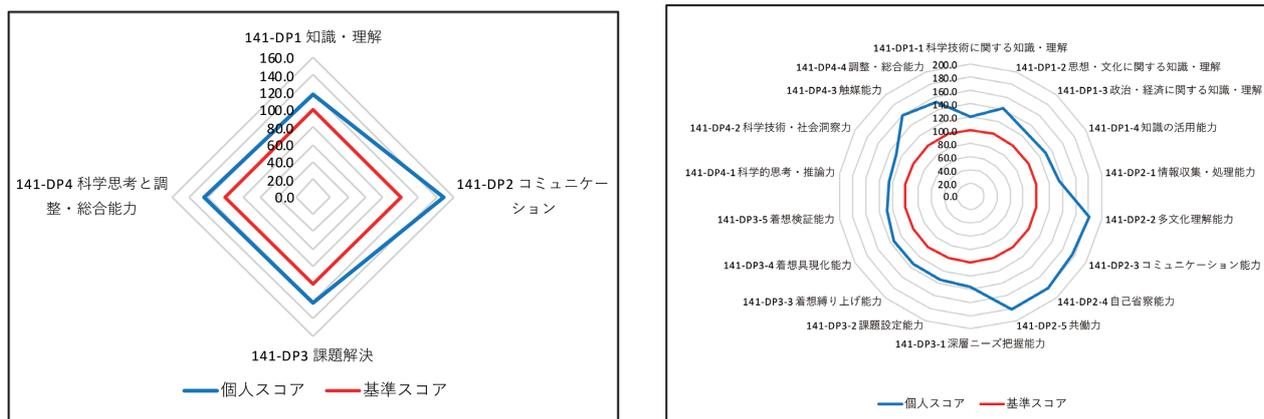
図表 II - 4 医学部医学部における YU CoB CuS (スコアリンググラフ)

図表 II - 5 理学部数理科学科における YU CoB CuS (カリキュラムマップ (抜粋))

授業科目	履修年次	単位数	必修◎/選択必修○/選択△	知識・理解				汎用的技能					態度・志向性	総合的な学習経験と創造的思考力	合計	
				DP1-1	DP1-2a	DP1-2b	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP2-4	DP2-5	DP3				
物理I	1	2	◎	◎	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	200
物理II	1	2	◎	◎	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	200
物理III	1	4	◎	◎	0	200	0	0	200	0	0	0	0	0	0	400
物理IV	1	2	○	○	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	200
物理V	2	2	○	○	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	200
物理VI	2	2	○	○	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	200
物理VII	2	2	○	○	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	200
物理VIII	2	2	○	○	0	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	200
数学I	1	3	◎	◎	0	150	0	0	150	0	0	0	0	0	0	300
数学II	2	3	○	○	0	150	0	0	150	0	0	0	0	0	0	300
電磁気学I	2	3	○	○	0	150	0	0	150	0	0	0	0	0	0	300
情報科学概論	1	2	◎	◎	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200
プログラミング言語I	1	2	◎	◎	0	100	0	0	0	100	0	0	0	0	0	200
プログラミング言語II	1	2	◎	◎	0	100	0	0	0	100	0	0	0	0	0	200
プログラミング言語III	2	2	○	○	0	100	0	0	0	100	0	0	0	0	0	200
プログラミング言語IV	2	2	○	○	0	100	0	0	0	100	0	0	0	0	0	200
論理学	2	2	○	○	0	100	0	0	0	100	0	0	0	0	0	200
合計					5400	2600	2950	1840	4690	640	940	440	600	400	20500	

2. 国際総合科学部における YU CoB CuS の成果

YU CoB CuS による DP 達成度について、2015 年度創設の国際総合科学部では卒業要件化しており、同学部 1 期生の卒業時の DP スコアを確認することができ、全ての項目についてクリアできている（図表 II - 6）。ただし、各 DP 項目の達成度のバランスについて、カリキュラム点検の観点から詳細の検証が必要である。また、同学部の学生が可視化された DP スコアを参照した振り返りを通して、自律的学習にどの程度活かされているかを検証する学生調査（国際総合科学部 2 年生・3 年生対象）を継続的に行った結果、一定程度の有効性が見られた（図表 II - 7 参照）。



図表 II - 6 国際総合科学部 1 期生 (N=88) の DP スコア (左が大項目、右が小項目)

図表 II - 7 国際総合科学部での YU CoB CuS を通した学修成果アセスメント調査

質問項目	入学年度	2年生	3年生
Q1 YU CoB CuSの結果をしっかりと確認している。	【2016年度入学者】 (N=77)	2.25	2.30
	【2017年度入学者】 (N=66)	2.74	2.55
Q2 授業を受講する際やテスト勉強をする際は、DPで求められている資質・能力や授業科目に割り当てられた基準スコアを意識している。	【2016年度入学者】	2.90	2.94
	【2017年度入学者】	3.06	2.86
Q3 担任教員によるYU CoB CuSに基づいた学習指導をその後の学習の参考に行っている。	【2016年度入学者】	2.51	2.70
	【2017年度入学者】	2.61	2.83
Q4 YU CoB CuSの基準スコアや自分が獲得した個人スコアに疑問があれば、授業担当教員や担任教員に質問するようにしている。	【2016年度入学者】	3.06	3.00
	【2017年度入学者】	3.17	3.23
Q5 YU CoB CuSの結果をもとに、自分の学習がうまくいっているかどうかを確認し、改善が必要であれば改善しようとしている。	【2016年度入学者】	2.52	2.60
	【2017年度入学者】	2.58	2.82 †

†p<.10

3. 卒業生・修了生満足度調査結果の概要

【1】実施概要

本調査は、2020年1月から3月にかけて実施し、全学部の回収率72.9%（前年度70.3%）、全研究科の回収率54.3%（前年度56.0%）であった（図表Ⅱ-8、図表Ⅱ-9参照）。

本調査は、学部卒業生版では、項目別満足度の5指標（「①学習・生活環境」「②学生生活の支援体制」「③共通教育や学部専門教育における多人数授業」「④専門少人数教育」「⑤人間関係」）及び「⑥総合満足度」の計6つの指標で構成している。大学院修了生版では、項目別満足度の5指標（「①生活環境」「②学習支援・生活支援」「③授業・研修支援、環境」「④進路支援・相談体制」「⑤人間関係」）及び「⑥総合満足度」の計6つの指標で構成している。教学マネジメントの強化に向け、卒業生・修了生満足度調査の集計分析は重要な事項であり、学部・研究科間比較や経年比較等を通して、本学の教育成果や学習環境等の改善充実のため、有効活用できるように図っていきたい。

【2】2019年度調査結果の概要

学部全体の総合満足度は71.8%であり、前年度70.4%から微増した。特に、人文学部や医学部の総合満足度の伸びが大きい。一方、工学部の総合満足度が他学部に比べて相対的に低くなっている。

項目別満足度では、「①学習・生活環境」において人文学部、経済学部、農学部の値が高く、工学部（知能情報工学科・循環環境工学科）の値が低い。「②学生生活の支援体制」において医学部、共同獣医学部の値が高い。「③共通教育や学部専門教育における多人数授業」において人文学部、経済学部の値が高く、工学部（知能情報工学科・感性デザイン工学科）の値が低い。「④専門少人数教育」において人文学部の値が高い。

研究科全体の総合満足度は79.1%であり、前年度71.9%から大幅に伸び、大半の研究科で数値が良好である。項目別満足度においても同様である。

【3】過去5年間の経年比較の概要（図表Ⅱ-10、図表Ⅱ-11）

今回、新たに、過去5年間の経年比較の概要をとりまとめることとした。

学部卒業生調査では、項目別満足度における「②学生生活の支援体制」の全学部の値が過去5年間を通して伸びているほか、「③共通教育や学部専門教育における多人数授業」の全学部の値が回復傾向にある。「⑥総合満足度」については、ほぼ横ばいであるが、前年度よりは微増となった。

大学院修了生調査では、項目別満足度の5つの指標すべてで増加傾向にあり、その結果、「⑥総合満足度」も過去5年間で最高の値となった。

III 学位プログラムレベル

図表 II-8 回収率（学部）

学部名	学科名	2019年度			2018年度		
		卒業生数	回収数	回収率 (%)	卒業生数	回収数	回収率 (%)
人文学部	人文学科	149	91	61.1	—	—	—
	人文社会学科	15	1	6.7	86	49	57.0
	言語文化学科	5	1	20.0	100	54	54.0
	人文学部 全体	169	93	55.0	186	103	55.4
教育学部	学校教育教員養成課程	189	184	97.4	183	171	93.4
	実践臨床教育課程	1	0	0.0	5	4	80.0
	情報科学教育課程	—	—	—	5	2	40.0
	健康科学教育課程	—	—	—	3	1	33.3
	総合文化教育課程	—	—	—	5	3	60.0
教育学部 全体	190	184	96.8	201	181	90.0	
経済学部	経済学科	119	104	87.4	104	97	93.3
	経営学科	175	164	93.7	176	164	93.2
	観光政策学科	43	41	95.3	41	37	90.2
	国際経済学科	5	3	60.0	8	4	50.0
	経済法学科	3	1	33.3	12	5	41.7
	商業教員養成課程	1	0	0.0	1	0	0.0
	経済学部 全体	346	313	90.5	342	307	89.8
理学部	数理科学科	49	29	59.2	48	21	43.8
	物理・情報科学科	50	38	76.0	57	27	47.4
	生物・化学科	75	58	77.3	70	25	35.7
	地球圏システム科学科	30	21	70.0	26	7	26.9
	理学部 全体	204	146	71.6	201	80	39.8
工学部	機械工学科	85	56	65.9	83	49	59.0
	社会建設工学科	82	40	48.8	71	46	64.8
	応用化学科	93	67	72.0	91	52	57.1
	電気電子工学科	76	51	67.1	80	46	57.5
	知能情報工学科	85	14	16.5	80	31	38.8
	感性デザイン工学科	65	31	47.7	57	18	31.6
	循環環境工学科	48	17	35.4	60	10	16.7
	工学部 全体	534	276	51.7	522	252	48.3
医学部	医学科	118	76	64.4	107	100	93.5
	保健学科	127	122	96.1	117	113	96.6
	医学部 全体	245	198	80.8	224	213	95.1
農学部	生物資源環境科学科	51	41	80.4	52	43	82.7
	生物機能科学科	48	42	87.5	52	45	86.5
	農学部 全体	99	83	83.8	104	88	84.6
共同獣医学部	獣医学科	33	19	57.6	28	27	96.4
国際総合科学部	国際総合科学科	88	78	88.6	88	81	92.0
全学部		1,908	1,390	72.9	1,896	1,332	70.3

図表 II-9 回収率（研究科）

研究科	専攻	2019年度			2018年度		
		修了者数	回収数	回収率 (%)	修了者数	回収数	回収率 (%)
人文科学研究科	人文科学専攻	6	4	66.7	3	0	0.0
教育学研究科	学校教育専攻	12	7	58.3	13	12	92.3
	教科教育専攻	11	9	81.8	22	21	95.5
	教育実践高度化専攻	15	8	53.3	14	10	71.4
	教育学研究科 全体	38	24	63.2	49	43	87.8
経済学研究科	経済学専攻	18	3	16.7	7	3	42.9
	企業経営専攻	10	2	20.0	5	4	80.0
	経済学研究科 全体	28	5	17.9	12	7	58.3
医学系研究科	医学系	24	5	20.8	8	0	0.0
	応用医学系（博士後期）	4	0	0.0	1	0	0.0
	応用分子生命科学系（博士後期）	3	0	0.0	4	0	0.0
	保健学（博士前期）	12	6	50.0	11	10	90.9
	保健学（博士後期）	4	0	0.0	1	0	0.0
	医学系研究科 全体	47	12	25.5	25	10	40.0
創成科学研究科（理）	基礎科学系専攻	39	25	64.1	28	13	46.4
	地球圏生命物質科学系専攻	37	28	75.7	46	13	28.3
	自然科学系専攻（理学系）	3	0	0.0	3	0	0.0
	創成科学研究科（理） 全体	79	53	67.1	77	26	33.8
創成科学研究科（工）	機械工学系専攻	55	35	63.6	58	35	60.3
	建設環境系専攻	65	37	56.9	56	38	67.9
	化学系専攻	77	47	61.0	81	42	51.9
	電気電子情報系専攻	97	41	42.3	107	55	51.4
	システム・デザイン工学系専攻（工学系）	3	0	0.0	3	1	33.3
	環境共生系専攻（工学系）	6	0	0.0	5	0	0.0
	物質工学系専攻（工学系）	4	0	0.0	0	0	—
創成科学研究科（工） 全体	307	160	52.1	310	171	55.2	
創成科学研究科（農）	農学系	24	19	79.2	32	27	84.4
	ライフサイエンス専攻（農学系）	—	—	—	3	0	0.0
創成科学研究科（農） 全体	24	19	79.2	35	27	77.1	
創成科学研究科 全体		410	232	56.6	422	224	53.1
理工学研究科（工）	システム設計工学系	—	—	—	3	0	0.0
	理工学研究科 全体	—	—	—	3	0	0.0
東アジア研究科		13	9	69.2	5	0	0.0
技術経営研究科		22	17	77.3	13	12	92.3
連合獣医学研究科		9	8	88.9	14	10	71.4
全研究科		573	311	54.3	546	306	56.0

図表11-10 過去5年間の各学部・学科の項目別満足度及び総合満足度に関する経年比較

学部	学科等	項目別満足度 (%)										⑥人間関係 (%)					⑧総合満足度 (%)															
		①学習・生活環境 (%)		②学生生活の支援体制 (%)		③共通教育や専門教育における多人数授業 (%)		④専門少人数教育 (%)		⑤教員と学生の関係 (%)		⑦教員と教員の関係 (%)		⑨教員と学生の関係 (%)		⑩教員と教員の関係 (%)		⑪教員と学生の関係 (%)		⑫教員と教員の関係 (%)												
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度											
人文学部	人文学科	69.7	64.2	69.6	64.0	71.3	50.4	54.6	64.3	63.5	65.6	70.4	65.7	63.8	67.2	56.3	80.8	80.6	81.5	84.9	75.0	84.1	85.5	85.0	79.8	75.0	68.0	67.7	71.7	89.8	67.7	
	人文社会学科	74.9	75.1	75.6	70.7	78.8	59.6	59.7	64.6	59.4	60.9	72.7	72.2	67.0	71.0	60.9	82.7	81.9	77.9	81.0	62.5	83.0	82.7	85.6	84.9	65.6	74.2	73.3	72.4	71.8	66.7	
	言語文化学科	72.0	69.0	72.8	67.5	71.3	54.4	56.8	64.5	61.3	69.3	71.4	68.6	65.5	69.2	71.6	81.7	81.1	79.6	82.8	82.6	83.6	84.3	85.3	82.5	82.1	70.7	70.2	72.1	70.8	74.0	
	人文学部 全体	69.7	73.2	70.9	69.6	70.5	61.1	69.4	66.9	62.2	65.1	69.9	67.2	64.4	63.3	66.6	82.8	79.8	81.1	80.4	77.9	84.2	80.8	85.6	84.7	81.0	71.9	72.9	72.1	69.9	70.9	
	学校教育実践課程	66.9	72.1	56.5	67.5	—	62.5	70.8	64.9	84.4	—	70.4	66.7	63.5	68.8	—	86.5	87.7	79.8	97.9	—	80.8	82.1	78.1	93.8	—	69.3	74.3	65.6	83.8	—	
教育学部	実践臨床教育課程	75.0	71.7	68.8	65.0	—	67.3	71.5	66.4	56.3	—	72.3	68.1	61.5	59.4	—	78.6	80.2	77.1	79.2	—	86.3	85.2	85.9	87.5	—	74.0	73.8	69.1	66.7	—	
	情報科学教育課程	72.5	73.0	65.4	100.0	—	65.8	56.7	67.4	100.0	—	73.1	64.5	64.4	100.0	—	78.1	76.8	75.0	100.0	—	85.8	83.5	97.9	100.0	—	73.5	69.3	69.9	100.0	—	
	総合文化教育課程	76.9	71.1	78.0	63.3	—	68.0	63.6	64.0	64.6	—	73.3	69.6	70.9	58.3	—	78.1	85.1	76.6	86.1	—	82.5	87.0	84.8	79.2	—	75.1	73.2	73.3	68.1	—	
	教育学部 全体	71.4	72.7	70.0	69.6	70.5	63.0	67.6	66.2	62.8	66.1	71.1	67.2	65.0	63.5	66.6	81.3	80.8	78.9	81.0	77.9	84.2	82.4	85.4	84.9	81.0	72.6	72.7	71.2	70.2	70.9	
	経済学科	75.3	75.4	73.0	72.0	72.9	70.6	69.9	70.4	66.9	66.9	76.8	72.0	72.0	74.2	73.0	78.8	77.1	78.1	78.9	78.3	89.2	84.2	87.7	84.4	84.7	75.3	77.8	78.5	78.4	73.8	
経済学部	経営学科	73.5	74.4	71.7	71.0	73.7	71.8	70.5	68.0	68.7	71.5	74.7	72.0	69.3	72.3	75.1	76.4	79.5	76.9	77.7	77.5	81.8	87.0	82.0	84.1	82.9	74.9	80.2	75.5	77.6	75.2	
	観光経営学科	70.2	71.5	70.2	75.0	72.0	69.3	69.0	89.0	74.3	72.1	74.0	67.9	71.6	73.1	75.1	78.2	77.7	80.7	81.9	75.6	82.3	92.4	88.3	92.6	86.2	72.1	77.9	78.5	81.6	75.1	
	国際経済学科	74.6	71.4	69.8	82.5	41.3	69.5	69.9	70.2	60.9	50.0	75.5	69.9	72.0	69.8	75.1	76.3	77.1	77.2	58.8	64.6	88.0	85.3	90.3	81.3	90.6	76.7	78.7	79.7	57.4	54.9	
	経済法学科	70.3	76.4	72.4	71.0	71.3	64.4	73.0	71.9	63.8	46.9	71.9	77.0	68.5	73.8	51.6	72.6	83.7	77.3	76.7	43.8	80.4	85.8	82.3	67.5	65.6	69.0	80.3	73.5	71.6	59.4	
	商業教育実践課程	77.2	56.7	72.5	—	—	70.8	61.5	62.5	—	—	73.6	66.7	62.5	—	—	84.5	78.5	72.0	—	—	87.5	93.8	91.1	—	—	79.8	73.2	74.6	—	—	
理学部	経営学部 全体	73.5	74.0	71.7	72.0	72.9	69.8	70.4	69.4	69.3	69.7	74.8	72.1	70.5	73.0	74.2	76.7	79.1	77.5	78.5	77.4	84.4	86.4	85.3	84.9	84.0	74.2	79.1	76.9	78.2	74.5	
	数理学科	74.3	74.3	69.2	74.0	73.2	64.7	72.4	67.6	73.5	73.5	70.9	68.7	68.5	73.6	68.2	77.5	81.2	76.0	86.9	78.5	83.7	85.0	71.9	86.3	80.7	73.0	75.4	70.4	78.0	73.9	
	物理・情報科学科	57.0	74.6	68.2	72.2	70.4	63.7	70.9	64.1	68.5	71.1	66.4	71.1	64.7	65.1	68.1	75.9	79.1	79.8	78.7	74.7	78.7	80.9	75.9	82.9	78.9	66.7	74.8	69.3	71.2	71.7	
	生物・化学科	65.2	75.2	58.6	61.4	67.3	70.2	72.1	68.1	64.5	69.5	69.3	71.3	61.2	57.5	68.4	75.8	77.7	74.7	81.3	76.0	76.7	81.8	84.0	84.5	79.7	70.3	75.2	66.3	67.1	70.8	
	地球観測システム科学科	75.0	70.5	69.4	67.0	64.9	73.4	70.3	74.3	71.4	68.5	87.5	73.3	70.0	70.4	70.3	91.7	84.6	80.6	77.4	83.0	84.4	83.0	91.9	82.1	77.3	81.3	75.1	74.6	73.1	71.3	
工学部	理学部 全体	65.6	74.2	64.3	68.9	69.0	66.4	71.6	66.1	68.8	70.6	69.7	71.0	64.4	65.4	68.5	77.2	79.8	76.8	81.6	77.1	79.9	82.4	79.4	84.2	79.4	70.4	75.1	68.6	71.8	71.7	
	機械工学科	62.4	65.5	60.6	54.7	62.8	66.7	62.9	67.8	62.4	65.9	71.8	65.6	64.0	61.9	64.4	82.3	75.5	78.1	74.5	73.1	76.6	78.6	81.4	80.7	78.6	70.3	70.5	69.0	73.2	69.2	63.3
	社会理工学科	63.1	60.1	56.3	60.8	70.3	62.1	66.3	66.2	64.0	73.9	70.9	64.9	66.4	59.6	69.2	79.6	73.5	76.5	73.4	80.2	82.1	83.2	85.3	79.9	82.3	69.7	67.3	66.9	64.9	73.8	
	応用化学科	69.8	52.9	62.8	63.8	66.3	65.0	53.3	61.2	63.0	68.0	72.2	58.8	60.8	65.5	69.0	74.2	69.0	78.2	78.1	78.8	84.1	67.1	87.9	82.2	80.3	71.6	58.2	67.3	69.1	70.9	
	電気電子工学科	58.8	68.0	71.8	63.8	64.2	64.7	64.8	70.4	65.9	67.5	67.7	65.7	71.9	65.8	68.7	75.4	74.2	79.2	77.0	76.1	82.8	84.9	82.4	77.5	80.4	67.2	69.0	73.8	68.6	69.7	
医学部	知能情報工学科	70.0	66.2	69.4	69.8	58.0	67.2	67.9	71.3	72.2	65.6	67.2	67.1	67.0	63.5	56.3	75.5	72.6	78.3	66.0	71.0	77.3	75.7	82.8	77.5	74.3	70.5	69.0	73.2	69.2	63.3	
	工学部 全体	60.2	60.8	63.0	60.3	60.4	63.5	65.6	72.5	72.6	65.0	60.3	60.9	66.3	61.8	55.5	74.3	68.5	80.5	78.2	66.9	80.3	80.0	84.9	88.9	82.7	65.6	65.1	71.9	69.5	63.9	
	看護学工学科	68.4	71.0	70.0	55.5	59.3	66.2	68.1	70.7	61.3	64.5	71.0	65.9	68.0	59.4	67.6	79.9	81.1	82.3	80.8	71.7	79.3	84.9	85.2	88.8	76.1	71.2	73.0	73.4	65.6	66.2	
	工学部 全体	64.3	63.4	64.6	61.6	64.3	64.9	63.9	67.7	69.1	64.2	66.4	66.4	65.3	67.7	69.1	64.2	66.4	65.8	77.6	75.0	75.2	80.5	79.0	80.8	80.0	69.5	66.9	70.4	67.2	68.9	
	医学科	59.9	60.0	55.9	52.9	63.3	62.6	67.8	64.3	61.1	68.3	56.7	63.3	63.1	63.6	69.5	73.5	73.3	72.1	73.2	78.5	81.1	83.9	81.8	83.0	81.8	64.2	68.8	66.0	62.6	67.8	
農学部	保健学科	71.2	66.5	64.0	68.8	70.8	73.1	65.5	67.0	67.8	72.9	75.6	65.5	66.8	57.4	72.0	86.2	81.0	84.0	82.2	81.5	86.5	83.5	84.3	84.7	84.8	77.1	70.8	70.7	72.5	74.9	
	生物資源科学科	65.8	63.5	60.2	61.3	67.9	68.1	66.6	65.7	64.6	71.1	67.0	66.8	65.1	63.1	68.9	78.5	77.7	78.9	77.5	78.4	82.7	82.4	83.7	83.4	82.3	71.3	69.9	68.5	67.8	72.2	
	農学部 全体	66.0	72.1	68.8	72.6	74.4	60.4	59.6	63.3	63.8	72.1	74.8	70.2	71.8	68.1	69.9	84.0	82.6	88.0	82.0	79.3	87.5	83.6	85.5	81.0	83.0	71.8	71.5	72.9	72.5	74.6	
	生物情報科学科	69.9	68.6	69.9	60.7	68.3	53.0	58.8	62.1	55.8	66.2	68.8	59.8	60.2	62.5	61.8	81.3	74.4	81.7	78.9	75.0	87.5	82.7	78.9	81.1	84.2	69.2	67.0	69.0	65.6	69.3	
	農学部 全体	66.9	70.1	69.4	66.4	71.3	59.7	62.9	62.6	59.7	69.1	70.3	65.3	65.0	65.2	65.8	82.5	79.3	83.5	80.4	77.1	86.5	84.1	81.7	81.0	83.6	70.9	70.5	70.5	69.0	71.9	
共同獣医学部	共同獣医学科	—	—	71.9	69.6	68.7	—	—	77.4	75.5	77.7	—	—	73.7	64.8	65.8	—	84.6	81.1	77.6	—	—	—	—	85.5	84.6	79.4	—	77.2	74.5	72.7	
	国際総合科学科	69.0	69.4	67.6	66.4	69.1	65.2	66.8	67.2	66.7	69.1	—	—	67.9	70.1	—	66.7	70.5	—	—	69.3	72.4	—	—	81.0	81.5	—	—	70.7	70.6		
	農学部 全体	69.0	69.4	67.6	66.4	69.1	65.2	66.8	67.2	66.7	69																					

図表 11 - 過去5年間の各研究科・専攻の項目別満足度及び総合満足度に関する年次比較

研究科	専攻	項目別満足度 (%)										④ 運動支援・相談体制 (%)					⑤ 人間関係 (%)					⑥ 総合満足度 (%)										
		① 生活環境 (%)		② 学習支援・生活支援 (%)		③ 授業・研究支援・奨励 (%)		④ 運動支援・相談体制 (%)		⑤ 人間関係 (%)		⑥ 総合満足度 (%)		⑦ 運動支援・相談体制 (%)		⑧ 人間関係 (%)		⑨ 総合満足度 (%)														
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度						
人文科学研究科	人文科学専攻	-	-	70.0	-	-	80.0	-	-	81.7	-	-	62.5	-	-	87.5	-	-	-	-	87.5	-	-	-	-	-	75.4					
	地域文化専攻	56.7	95.0	-	-	46.8	87.5	-	-	58.3	75.0	-	-	50.0	79.2	-	-	59.5	89.3	-	-	-	-	-	-	-	-					
人文科学研究科 全体	言語文化専攻	100.0	65.0	-	-	100.0	56.3	-	-	100.0	100.0	-	-	100.0	87.5	-	-	100.0	76.8	-	-	-	-	-	-	-	-					
	学校教育専攻	67.5	83.0	-	-	70.0	59.4	75.0	-	80.0	88.3	98.3	-	-	68.8	77.5	-	-	62.5	70.0	82.5	-	-	87.5	69.6	84.3	-	75.4				
教育学研究科	学校教育専攻	64.5	74.2	68.3	65.4	74.7	63.6	81.3	79.2	57.3	78.3	67.4	91.0	81.5	91.7	91.1	54.5	78.1	73.6	51.0	80.0	67.0	82.3	83.3	64.0	80.5	75.4	70.2	80.7			
	教育実践高度化専攻	69.6	79.8	75.9	77.1	81.5	80.5	85.4	67.2	85.7	86.3	84.9	90.6	82.3	91.2	87.5	70.0	77.9	66.4	78.0	86.3	78.1	89.1	88.1	87.5	75.9	83.6	76.6	82.2	85.0		
経済学研究科	経営学専攻	-	-	69.2	68.5	78.0	-	-	90.6	78.8	85.0	-	-	91.7	90.0	96.7	-	-	88.3	68.8	76.0	-	-	95.5	85.0	95.0	-	-	80.4	77.0	83.8	
	企業経営専攻	67.5	78.2	71.9	71.9	78.4	73.6	84.2	77.7	76.2	83.5	77.8	90.7	85.1	91.0	91.3	63.5	78.0	73.9	68.3	81.6	73.6	87.5	89.2	85.8	88.5	70.6	82.7	77.3	77.6	80.1	
理学研究科	物理学専攻	93.0	81.7	93.3	86.7	78.7	95.0	83.3	100.0	100.0	100.0	100.0	97.2	91.7	97.2	95.6	92.5	66.7	100.0	83.3	100.0	87.5	100.0	100.0	100.0	100.0	92.9	86.5	100.0	95.8	99.3	
	企業経営専攻	93.3	83.6	100.0	93.8	98.0	93.8	91.1	100.0	100.0	100.0	98.6	89.3	100.0	100.0	100.0	85.4	83.9	100.0	87.5	100.0	89.6	87.5	100.0	100.0	100.0	92.9	86.5	100.0	95.8	99.3	
医学研究科	医学系	69.2	47.5	55.0	-	68.8	78.6	50.0	50.0	-	82.0	67.9	62.5	75.0	-	82.7	72.6	56.3	69.5	-	76.0	68.8	62.5	56.3	-	84.0	69.0	54.5	59.8	-	76.9	
	応用医学工学系 (修士前期)	78.0	68.2	-	-	75.0	64.8	-	-	-	86.7	72.0	-	-	-	78.8	52.3	-	-	-	-	85.3	76.1	-	-	-	80.7	67.4	-	-	-	
医学系研究科	応用医学工学系 (修士後期)	91.7	85.0	55.0	-	91.7	62.5	50.0	-	-	94.4	91.7	66.7	-	-	83.3	50.0	53.1	-	-	-	83.3	62.5	85.6	-	-	88.9	75.0	68.0	-	-	
	応用分子生命科学系 (修士前期)	61.5	77.8	-	-	58.2	74.2	-	-	-	77.9	83.3	-	-	-	66.8	74.2	-	-	-	-	79.9	86.7	-	-	-	67.9	79.2	-	-	-	
医学系研究科	応用分子生命科学系 (修士後期)	72.8	70.4	78.9	57.5	79.3	72.5	69.6	88.9	70.0	78.3	83.3	91.1	88.9	78.3	84.4	72.2	66.1	72.2	70.0	73.3	80.5	92.9	84.7	76.3	83.3	73.4	77.3	82.3	68.2	80.0	
	保健学 (修士前期)	-	-	90.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	95.8	-	-	-	-	-	-	-	68.8	-	-	-	-	87.5	-	-	89.3	-	80.3
医学系研究科 全体	保健学 (修士後期)	69.2	71.6	71.8	57.5	76.0	68.4	69.9	76.5	70.0	82.0	80.5	81.3	82.8	78.3	85.3	71.5	65.1	66.2	70.0	76.0	80.0	84.7	77.2	76.3	86.0	72.5	74.4	74.8	68.2	84.7	
	基礎科学専攻	-	-	58.1	62.3	81.0	-	-	88.8	80.8	84.4	-	-	66.7	79.5	89.3	-	-	62.0	67.3	80.8	-	-	78.1	85.6	91.6	-	64.9	72.7	84.7	-	
創成科学研究科 (理)	地圏圏生命科学専攻	-	-	57.6	57.6	68.6	-	-	64.0	64.0	82.1	-	-	61.8	61.8	78.9	-	-	64.7	64.7	78.9	-	-	75.0	75.0	89.3	-	-	62.9	62.9	77.2	-
	創成科学研究科 (理) 全体	-	-	57.9	63.7	74.4	-	-	66.8	78.4	83.2	-	-	64.6	74.4	84.0	-	-	63.1	66.3	79.8	-	-	76.8	83.7	90.4	-	-	64.1	71.3	80.8	-
創成科学研究科 (工)	機械工学専攻	-	-	66.7	65.1	63.1	-	-	73.3	76.8	76.0	-	-	78.6	75.0	77.0	-	-	65.4	70.4	68.6	-	-	81.3	82.1	85.7	-	-	72.1	72.1	71.9	-
	建設環境系専攻	-	-	53.9	68.7	68.4	-	-	62.5	71.1	80.3	-	-	69.9	69.7	85.6	-	-	58.3	63.5	70.5	-	-	86.0	80.9	88.1	-	-	64.1	70.3	76.9	-
創成科学研究科 (工) 全体	化学系専攻	-	-	68.1	58.8	76.2	-	-	75.0	63.0	77.0	-	-	81.2	66.7	81.4	-	-	72.7	66.7	73.6	-	-	89.6	80.4	89.4	-	-	76.3	65.5	78.9	-
	電気電子情報系専攻	-	-	66.4	67.8	70.6	-	-	80.5	70.1	83.3	-	-	78.5	75.8	82.6	-	-	77.0	70.3	81.3	-	-	84.3	83.6	87.8	-	-	75.1	72.3	78.9	-
創成科学研究科 (工) 全体	創成科学研究科 (工) 全体	-	-	64.2	64.9	70.1	-	-	73.8	70.0	78.9	-	-	77.3	72.4	81.4	-	-	69.4	67.9	73.5	-	-	85.5	81.9	87.9	-	-	72.3	70.0	76.8	-
	農学系	-	-	65.4	70.1	-	-	-	64.4	71.6	-	-	-	75.0	75.4	-	-	-	63.9	68.9	-	-	-	-	81.5	78.4	-	-	69.4	72.5	-	-
創成科学研究科 (農) 全体	創成科学研究科 (農) 全体	-	-	61.7	65.4	70.1	-	-	43.5	64.4	71.6	-	-	77.8	75.0	75.4	-	-	61.3	63.9	68.9	-	-	80.4	81.5	78.4	-	-	65.1	69.4	72.5	-
	創成科学研究科 全体	-	-	62.6	64.8	71.1	-	-	88.9	70.3	79.3	-	-	74.6	73.0	81.5	-	-	67.1	67.2	74.6	-	-	83.0	82.1	87.7	-	-	69.7	70.1	77.4	-
東アジア研究科	東アジア研究科	85.0	-	82.0	-	88.4	98.2	-	87.5	-	94.4	99.0	-	95.0	-	93.3	89.3	-	80.0	-	80.0	86.8	-	-	92.5	-	88.9	90.1	-	86.8	-	90.6
	技術経営研究科	80.9	-	65.6	63.8	76.5	89.4	91.3	-	87.5	82.3	89.4	91.3	-	97.5	81.9	88.2	85.8	-	59.7	76.0	80.0	93.2	-	73.6	82.3	88.2	91.1	-	75.0	74.7	83.0
理化学部	理化学部	73.3	-	70.0	73.3	80.6	50.0	-	83.3	76.3	92.5	75.0	-	77.8	75.8	92.5	58.3	-	64.5	62.9	70.0	66.7	-	-	89.6	75.2	88.8	67.3	-	75.6	71.9	84.5
	総合理化学研究科	67.9	68.9	65.7	66.4	73.1	67.2	71.6	72.5	72.5	81.4	79.5	80.3	78.3	76.6	83.6	66.6	68.5	68.5	68.1	76.2	81.5	83.6	83.8	82.6	87.9	71.9	73.9	72.2	71.8	79.1	

※2012年度からは30年度における「全研究科」の数値は、旧・理工学研究科の数値を含めたものである。

IV

授業科目レベル

IV 授業科目レベル

山口大学では、学部・研究科において学生授業評価及び教員授業自己評価が実施されている。授業科目レベルの教学マネジメントとして基本となる事項である。なお、2020年度においては、コロナ禍の中で全学生・全教員対象「遠隔講義アンケート」を実施しており、後段では、その結果の概要について併せて紹介する。

1. 授業評価の結果(全学)

【1】学生授業評価の実施状況

「学生授業評価及び教員授業自己評価の回答状況一覧(2015～2019年度)」(図表Ⅲ-1)では、教育情報システム(IYOCAN)で処理された学生授業評価と教員授業自己評価、およびIYOCANを利用しないで独自に授業評価を集計している学部・研究科のすべての授業評価の実施率をまとめたものである。

2019年度の学生授業評価はすべての学部・研究科(修士レベル)・共通教育で実施され、回答数合計は111,836人(※IYOCANのみ)であった。

実施率が最も高かったのは医学部医学科(100.0%)、続いて高かったのは理学部・農学部(いずれも91.5%)であった。学部・研究科で全体的に昨年度より減少する結果となっている。

【2】教員授業自己評価の実施状況

教員授業自己評価は、医学部保健学科を除くすべての学部・研究科等で実施された。教員授業自己評価の実施率が最も高かったのは医学部医学科(100.0%)、理学部(60.1%)であった。多くの学部・研究科で昨年度より減少する結果となっている。

図表Ⅲ - 1 学生授業評価及び教員授業自己評価の回答状況一覧 (2015~2019年度)

<学部>学生授業評価

データベース	学部等	学生授業評価 (2015年度)	学生授業評価 (2016年度)	学生授業評価 (2017年度)	学生授業評価 (2018年度)	学生授業評価 (2019年度)	対象授業
I Y O C A N 2	共通教育	86.6%	84.8%	89.7%	91.7%	90.5%	全て
	人文学部	82.8%	84.3%	79.7%	80.5%	76.0%	卒業論文、集中講義、一部の演習を除く
	教育学部	81.0%	82.6%	75.5%	76.1%	79.2%	卒業研究、教育実習、事前・事後指導、介護等体験実習を除く
	経済学部	81.4%	79.3%	81.4%	81.4%	78.3%	卒業論文演習、演習Ⅰ・Ⅱを除く
	理学部	89.3%	93.6%	92.5%	95.2%	91.5%	特別研究、集中講義、一部の実習等を除く
	工学部	88.5%	90.1%	85.2%	89.9%	89.9%	卒業論文、国際実習、社会活動実習、インターンシップを除く
	農学部	89.2%	87.7%	93.2%	86.6%	91.5%	卒業論文、集中講義、特別演習、専攻演習、インターンシップ等を除く
	共同獣医学部	90.4%	82.8%	88.0%	89.2%	84.0%	卒業論文、集中講義、特別演習、専攻演習、インターンシップ等を除く
	国際総合科学部	76.2%	89.9%	95.0%	94.5%	86.7%	
独自	医学部(医学科)	91.6%	93.3%	92.7%	100.0%	100.0%	自己開発コース、臨床実習1、臨床実習2、を除く
独自	医学部(保健学科)	72.3%	83.8%	81.1%	74.8%	59.0%	授業評価の必要なものに限定

<学部>教員授業自己評価

データベース	教員授業自己評価 入力率 (2015年度)	教員授業自己評価 入力率 (2016年度)	教員授業自己評価 入力率 (2017年度)	教員授業自己評価 入力率 (2018年度)	教員授業自己評価 入力率 (2019年度)	対象授業
I Y O C A N 2	41.5%	34.8%	30.9%	29.6%	21.2%	全て
	43.6%	31.1%	33.2%	32.7%	22.2%	学生授業評価と同じ
	46.6%	40.1%	56.3%	47.4%	35.4%	学生授業評価と同じ
	62.0%	61.7%	40.7%	33.8%	28.9%	学生授業評価と同じ
	58.3%	35.9%	38.4%	69.0%	60.1%	学生授業評価と同じ
	31.0%	27.1%	27.7%	10.3%	28.4%	学生授業評価と同じ
	92.6%	57.3%	60.9%	64.5%	57.9%	学生授業評価と同じ
	98.3%	97.1%	48.6%	19.2%	10.7%	学生授業評価と同じ
	88.7%	70.4%	79.9%	64.9%	37.3%	学生授業評価と同じ
独自	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	全て
独自	51.1%	68.0%	66.4%	73.8%	46.1%	-

<大学院>学生授業評価

データベース	学部等	学生授業評価 (2015年度)	学生授業評価 (2016年度)	学生授業評価 (2017年度)	学生授業評価 (2018年度)	学生授業評価 (2019年度) (*1)	対象授業
I Y O C A N 2	技術経営研究科	58.3%	53.6%	67.9%	100.0%	74.2%	全て
	医学系研究科	51.8%	72.6%	65.8%	93.6%	81.8%	特別研究、オムニバスを除く
	教育学研究科	66.3%	67.5%	62.4%	71.4%	53.7%	課題研究、総合研究、実習等を除く
	経済学研究科	24.2%	8.1%	42.3%	21.0%	100.0%	演習、セミナーを除く
	創成科学研究科	-	71.6%	70.3%	76.5%	77.4%	
	教育学研究科 (専門職学位課程)	-	95.5%	78.5%	83.9%	78.8%	
独自	人文科学研究科	21.4%	87.5%	50.0%	30.0%	80.0%	半期の授業全体に対する評価を実施しており、授業ごとには実施していない、後期は実施せず

<大学院>教員授業自己評価

データベース	教員授業自己評価 入力率 (2015年度)	教員授業自己評価 入力率 (2016年度)	教員授業自己評価 入力率 (2017年度)	教員授業自己評価 入力率 (2018年度)	教員授業自己評価 入力率 (2019年度) (*1)	対象授業
I Y O C A N 2	66.7%	14.3%	28.6%	16.7%	9.7%	〃
	81.6%	15.9%	14.3%	0.0%	33.3%	〃
	53.6%	40.2%	60.9%	48.7%	28.2%	〃
	45.6%	58.6%	34.2%	17.9%	15.9%	〃
	-	32.1%	27.7%	26.6%	34.8%	〃
	-	59.1%	67.7%	24.6%	42.0%	〃
独自	41.4%	40.9%	22.2%	20.0%	16.7%	〃

なお、創成科学・医学系研究科の博士後期課程、および連合獣医学研究科、連合農学研究科、東アジア研究科(すべて博士後期課程)は実施対象から除いている。

[3] 全学共通の質問項目に関する分析

次に、全学共通質問項目である5項目を取り上げ、各学部・研究科ごとに経年変化をみていく。各質問項目の選択肢1~5の平均値を算出し、授業区分別（講義、講読、演習、実験・実習、語学）に結果を整理した（図表Ⅲ-2、図表Ⅲ-3、図表Ⅲ-4参照）。

なお、大学院については、IYOCANを利用した学生授業評価を行っている研究科とそれ以外の独自の方法で実施している研究科が混在しているため、ここではIYOCANを利用している創成科学研究科、技術経営研究科、医学系研究科、教育学研究科、経済学研究科のみの結果を整理した。ただし、教育学研究科については共通質問項目「満足」のデータのみ尋ねているため他の項目はデータが存在しない。

① 共通質問項目1「授業外学習時間」

Q. あなたはこの授業において、授業外学習(予習・復習・宿題やレポート作成・試験勉強)をどれくらい行いましたか？総時間を平均し、授業1回あたりの時間に換算してお答えください。

1. 3時間程度または以上、2. 2時間程度、3. 1時間程度、4. 30分~50分程度、5. 30分未満

共通質問項目1は、授業1回あたりの授業外学習時間を尋ねたものである。平均値は1)3時間程度または以上を5点、5)30分未満を1点として授業区分別の平均値を算出した。

2019年度の平均値データは2018年度の平均値と比べると、学部段階では、共通教育、教育学部、経済学部、理学部、工学部、農学部、共同獣医学部で増加傾向にある一方、人文学部、国際総合科学部で減少傾向にある。特に、共通教育は過去5年間で最高の数値を示している。

② 共通質問項目2「学習目標達成」

Q. あなたは、シラバスに記載された学習目標を達成したと思いますか？

1. そう思う、2. ややそう思う、3. どちらとも言えない、4. あまりそう思わない、5. そう思わない

共通質問項目2はシラバスに記載された学習目標を学生自身が達成できたかどうかについて尋ねたものである。山口大学はシラバスに観点別の到達目標を記載する方式となっており、「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」「関心・意欲の観点」「態度の観点」「技能・表現の観点」の5つのうちから教員が用いる観点を選び、それぞれについて具体的な到達目標を学生に示すことになっている。これらの学習目標を達成できたかどうかについて、「1. そう思う」を5点、「そう思わない」を1点として平均値を授業区分別に算出した。

今年度はほとんどの学部・研究科で平均値が現状維持又は上昇している。修学支援システムの運用により、受講登録の際にweb上でシラバスを読み、各授業の到達目標を理解して授業に臨んでいる者が増えていると推察される。授業の到達目標を知り、どのような成績評価方法で評価を受けるのかを事前に知って受講するのとしなないのでは大きな差が出る。修学支援システムの運用により、学生の受講態度や理解度に効果を与えているとすれば良いことである。

③ 共通質問項目 3 「理解」

Q. あなたは、この授業の内容を理解したと思いますか？

1. そう思う、
2. ややそう思う、
3. どちらとも言えない、
4. あまりそう思わない、
5. そう思わない

共通質問項目 3 は授業の理解度について尋ねた設問である。多くの学部・研究科で昨年度を上回っており、特に共通教育は昨年度に比べ、上昇している。これは多くの学生が「そう思う」「ややそう思う」といった肯定的な回答をしていることを意味しており、授業担当の先生方の努力が実っていると考えられる。共通教育という大人数の授業が多い中でこのように高い理解度であることは良い状況にあるといえよう。

④ 共通質問項目 4 「満足」

Q. この授業はあなたにとって満足のいくものでしたか？

1. そう思う、
2. ややそう思う、
3. どちらとも言えない、
4. あまりそう思わない、
5. そう思わない

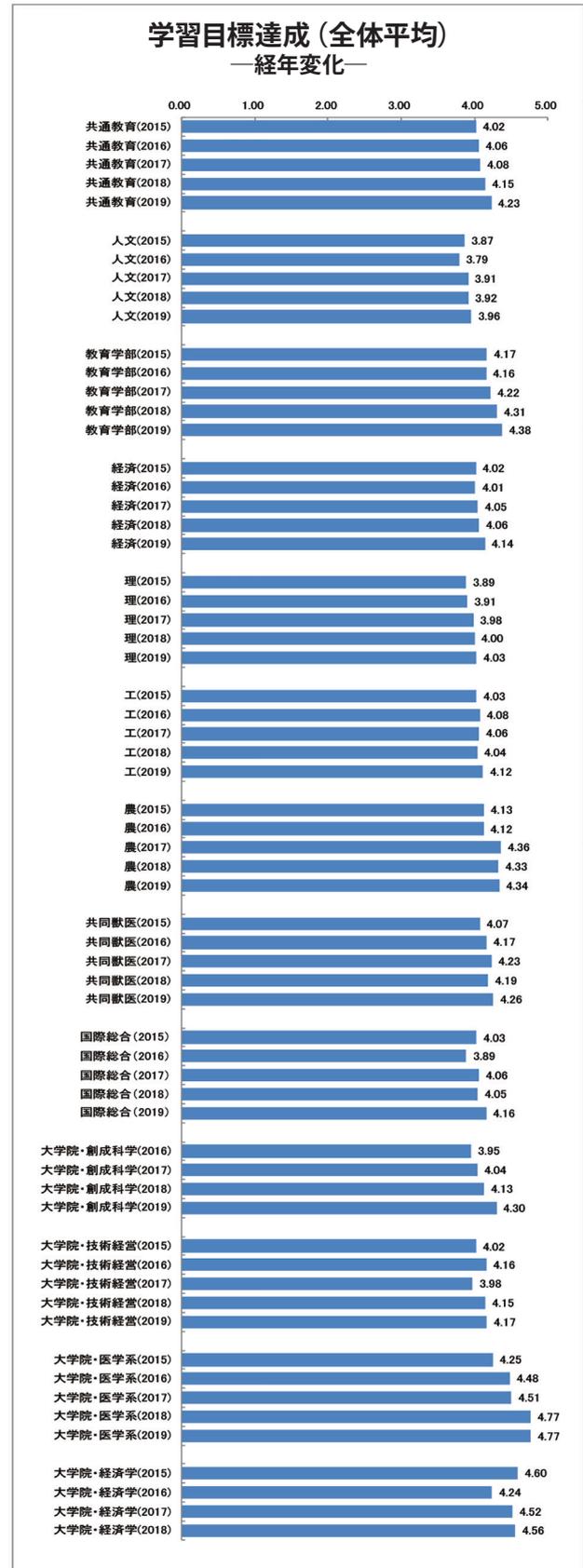
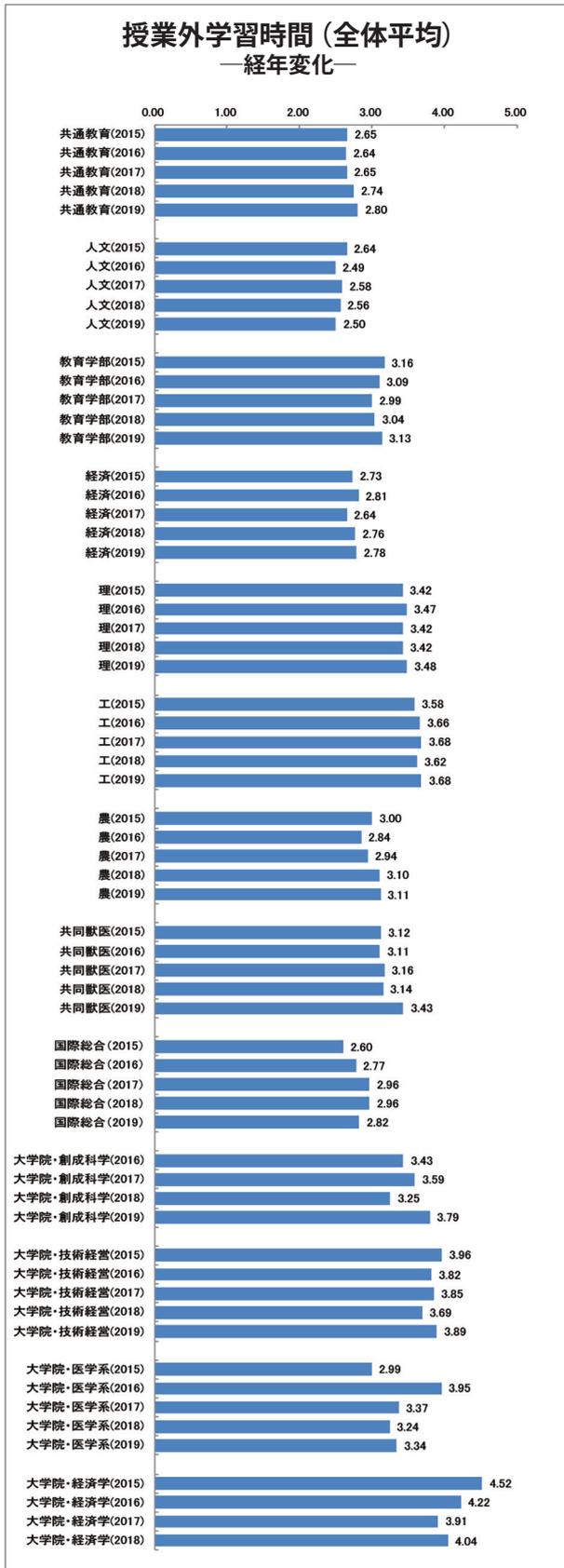
共通質問項目 4 は授業の満足度について尋ねた設問である。多くの学部・研究科で平均値が上昇しており、概ね一定の満足度が得られていることが確認できる。学部段階では、すべての学部で高い数値を示している。

⑤ 共通質問項目 5 「出席」

Q. あなたは、この講義にどれくらい出席しましたか？ (括弧内は、15回講義の場合の出席回数参考値)

- | | | |
|------------------|--------------------|-------------------|
| 1. 90%以上 (14回以上) | 2. 80~90% (12~13回) | 3. 60~80% (9~11回) |
| 4. 40~60% (6~8回) | 5. 40%未満 (6回未満) | |

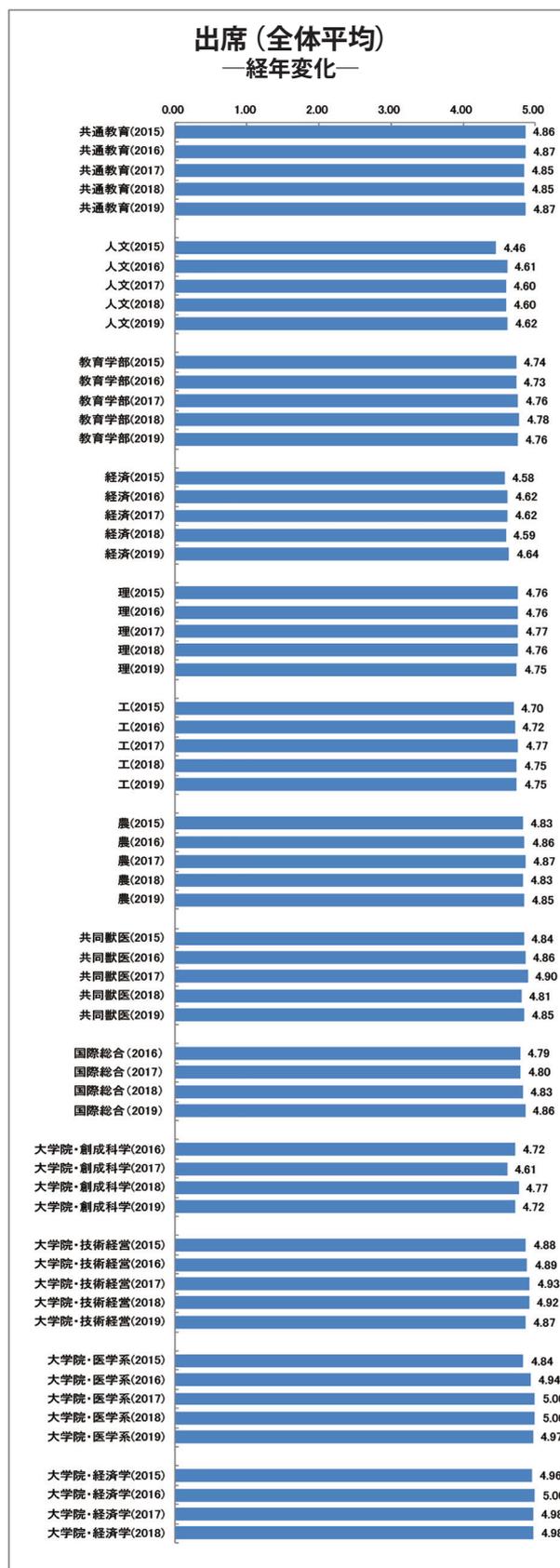
共通質問項目 5 は授業への出席状況について尋ねた設問である。本質問も選択肢 1 の 90%以上を 5 点、選択肢 5 の 40%未満を 1 として計算を行った。すべての学部・研究科で 4.5 を超える高い平均値となっている。全体的にみて山口大学の学生の授業出席率は非常に良好であるといえる。



図表Ⅲ - 2 授業外学習時間・学習目標達成の経年変化 (2015~2019 年度)



図表Ⅲ - 3 授業理解度・授業満足度の経年変化 (2015~2019年度)



図表Ⅲ - 4 授業出席状況の経年変化（2015～2019年度）

【4】 共通教育における学生授業評価結果

次に、共通教育に絞って2019年度の学生授業評価の結果を考察する。前節で示したデータのとおり、今年度の共通教育の学生授業評価実施率は90.5%、教員授業自己評価実施率は21.2%であった。学生授業評価実施率は昨年度と同様に90%を超える実施率を維持した。この傾向を引き続き続けていくことが求められる。なお、回答数は合計49,511人であった。2013年度における共通教育の大幅なカリキュラム改正に伴い、新しい共通教育の科目系列・分野に応じて評価結果を掲載している。過去5年間の経年変化を見ていくこととしている。なお、以下に示す学生授業評価の結果は質問紙の種類（講義用、語学用、実験実習用の3種類）別に分野別の平均値の変化を経年で示したものである。

① 講義系科目の結果について

図表Ⅲ-5は4種類の質問紙のうち「講義」用を使用している講義系科目を系列・分野別に整理し、評定平均値を算出したものである。講義系科目には大きく分類して「教養コア」「一般教養（人文教養）」「一般教養（社会教養）」「一般教養（自然教養）」「一般教養（学際的教養）」「専門基礎」に分けられる。またそれぞれ分野別に細かく分かれている。

Q1の出席状況は「1. 90%以上（14回以上）」を5点、「5. 40%未満（6回未満）」を1点として平均値を計算したものである。すべて4.5を超えており良好である。

Q2の授業外学習は予習・復習・宿題やレポート作成、試験勉強を行った総時間を平均し、授業1回あたりの時間に換算した時間を尋ねたものである。「1. 3時間程度または以上」「2. 2時間程度」「3. 1時間程度」「4. 30-50分程度」「5. 30分未満」をそれぞれ5,4,3,2,1として平均値を算出した。最も高いのは「理系基礎」が3.35、次に高かったのは、アクティブ・ラーニング型科目である「基礎セミナー」が3.31、「山口と世界」が3.21、さらには、反転授業などを取り入れている「科学技術と社会」3.15となっている。なお、大学設置基準には「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする」と規定されており、この中には授業時間の他に予習、復習の時間が含まれている。例えば、2単位の講義を行う場合90時間の学修が必要であり、このうち授業の30時間を除く60時間が授業外学習となる。つまり、半期15回の授業では1回の授業2時間に対して4時間の授業外学習が必要という計算になる。単位の実質化という観点から、現在の傾向がさらに進むことが期待される。

Q8のシラバスに記載された学習目標を達成したかについては「1. そう思う」「2. ややそう思う」「3. どちらとも言えない」「4. あまりそう思わない」「5. そう思わない」を5,4,3,2,1とし、「6. 答えられない」は平均値の計算から除いた。これはシラバスを読んでいる学生や学習目標を忘れた学生のために設けられた選択肢である。平均値はすべての科目で4.0を上回っており良好である。

Q9のこの授業の内容を理解できたかという質問については大半の科目が4.0を上回っており良好であった。

最後にQ10のこの授業はあなたにとって満足のいくものだったかという質問については最も平均値が高かったのは文化の継承と創造（4.51）であり、次に高かったのは基礎セミナー（4.50）、食と生命（4.46）と続く状況であった。

図表Ⅲ-5 共通教育の講義系科目における学生授業評価結果（2015～2019年度）

系列	分野	授業区分(質問紙)	Q1出席	Q2授業外学習	Q8学習目標達成	Q9理解	Q10満足
教養コア	基礎セミナー(2015)	講義	4.90	3.13	4.15	4.37	4.46
教養コア	基礎セミナー(2016)	講義	4.90	2.94	4.17	4.41	4.46
教養コア	基礎セミナー(2017)	講義	4.88	3.09	4.16	4.39	4.43
教養コア	基礎セミナー(2018)	講義	4.89	3.09	4.20	4.41	4.45
教養コア	基礎セミナー(2019)	講義	4.91	3.31	4.31	4.50	4.50
教養コア	情報処理(2015)	講義	4.93	2.51	4.00	4.20	4.19
教養コア	情報処理(2016)	講義	4.91	2.57	4.03	4.21	4.22
教養コア	情報処理(2017)	講義	4.92	2.45	4.06	4.20	4.21
教養コア	情報処理(2018)	講義	4.92	2.84	4.08	4.20	4.18
教養コア	情報処理(2019)	講義	4.94	2.56	4.14	4.27	4.27
教養コア	運動健康科学(2015)	講義	4.87	2.47	4.03	4.28	4.31
教養コア	運動健康科学(2016)	講義	4.88	2.25	4.07	4.28	4.33
教養コア	運動健康科学(2017)	講義	4.85	2.26	3.98	4.17	4.16
教養コア	運動健康科学(2018)	講義	4.86	2.44	4.09	4.19	4.18
教養コア	運動健康科学(2019)	講義	4.89	2.50	4.12	4.27	4.26
教養コア	山口と世界(2015)	講義	4.90	3.10	4.28	4.45	4.37
教養コア	山口と世界(2016)	講義	4.93	3.03	4.28	4.44	4.35
教養コア	山口と世界(2017)	講義	4.93	3.26	4.28	4.43	4.35
教養コア	山口と世界(2018)	講義	4.91	3.12	4.27	4.38	4.29
教養コア	山口と世界(2019)	講義	4.94	3.21	4.43	4.53	4.44
教養コア	キャリア教育(2015)	講義	4.91	2.69	4.07	4.22	4.13
教養コア	キャリア教育(2016)	講義	4.90	2.68	4.13	4.27	4.23
教養コア	キャリア教育(2017)	講義	4.88	2.52	4.04	4.20	4.10
教養コア	キャリア教育(2018)	講義	4.90	2.63	4.09	4.23	4.14
教養コア	キャリア教育(2019)	講義	4.91	2.65	4.14	4.30	4.21
一般教養(人文教養)	哲学(2015)	講義	4.79	2.04	3.85	3.87	4.07
一般教養(人文教養)	哲学(2016)	講義	4.84	2.04	4.04	4.10	4.30
一般教養(人文教養)	哲学(2017)	講義	4.82	1.82	4.04	4.19	4.36
一般教養(人文教養)	哲学(2018)	講義	4.83	2.03	4.14	4.19	4.36
一般教養(人文教養)	哲学(2019)	講義	4.89	2.27	4.21	4.25	4.41
一般教養(人文教養)	歴史学(2015)	講義	4.85	2.12	3.77	3.77	3.88
一般教養(人文教養)	歴史学(2016)	講義	4.86	2.05	3.90	3.93	4.01
一般教養(人文教養)	歴史学(2017)	講義	4.88	2.03	3.93	3.99	4.05
一般教養(人文教養)	歴史学(2018)	講義	4.86	2.08	3.95	3.92	3.99
一般教養(人文教養)	歴史学(2019)	講義	4.89	2.13	4.03	4.02	4.10
一般教養(人文教養)	社会学(2015)	講義	4.91	2.33	3.87	4.01	4.01
一般教養(人文教養)	社会学(2016)	講義	4.87	2.25	3.99	4.09	4.14
一般教養(人文教養)	社会学(2017)	講義	4.82	2.27	3.99	4.20	4.23
一般教養(人文教養)	社会学(2018)	講義	4.84	2.33	4.12	4.19	4.23
一般教養(人文教養)	社会学(2019)	講義	4.85	2.44	4.14	4.27	4.32
一般教養(社会教養)	経済と法(2015)	講義	4.87	2.25	3.96	4.13	4.24
一般教養(社会教養)	経済と法(2016)	講義	4.86	2.27	3.91	4.00	4.14
一般教養(社会教養)	経済と法(2017)	講義	4.84	2.24	3.94	4.05	4.15
一般教養(社会教養)	経済と法(2018)	講義	4.79	2.39	4.00	4.05	4.15
一般教養(社会教養)	経済と法(2019)	講義	4.84	2.48	4.10	4.18	4.30
一般教養(自然科学)	自然科学(2015)	講義	4.88	2.10	3.77	3.80	3.81
一般教養(自然科学)	自然科学(2016)	講義	4.86	1.99	3.81	3.83	3.85
一般教養(自然科学)	自然科学(2017)	講義	4.89	2.11	3.83	3.90	3.93
一般教養(自然科学)	自然科学(2018)	講義	4.89	2.23	3.95	3.96	3.98
一般教養(自然科学)	自然科学(2019)	講義	4.92	2.21	4.08	4.12	4.19
一般教養(学際的教養)	人間の発達と育成(2015)	講義	4.87	2.38	4.08	4.28	4.36
一般教養(学際的教養)	人間の発達と育成(2016)	講義	4.89	2.21	4.13	4.34	4.45
一般教養(学際的教養)	人間の発達と育成(2017)	講義	4.86	2.17	4.03	4.21	4.29
一般教養(学際的教養)	人間の発達と育成(2018)	講義	4.87	2.25	4.14	4.28	4.37
一般教養(学際的教養)	人間の発達と育成(2019)	講義	4.88	2.28	4.13	4.27	4.39
一般教養(学際的教養)	文化の継承と創造(2015)	講義	4.88	2.35	4.01	4.18	4.19
一般教養(学際的教養)	文化の継承と創造(2016)	講義	4.87	2.32	4.05	4.23	4.25
一般教養(学際的教養)	文化の継承と創造(2017)	講義	4.86	2.37	4.04	4.21	4.24
一般教養(学際的教養)	文化の継承と創造(2018)	講義	4.87	2.51	4.08	4.18	4.23
一般教養(学際的教養)	文化の継承と創造(2019)	講義	4.88	2.47	4.26	4.42	4.51
一般教養(学際的教養)	社会と医療(2015)	講義	4.87	2.03	4.03	4.23	4.30
一般教養(学際的教養)	社会と医療(2016)	講義	4.89	2.06	4.10	4.26	4.33
一般教養(学際的教養)	社会と医療(2017)	講義	4.86	1.95	4.12	4.25	4.30
一般教養(学際的教養)	社会と医療(2018)	講義	4.84	1.98	4.15	4.27	4.32
一般教養(学際的教養)	社会と医療(2019)	講義	4.88	2.05	4.27	4.42	4.44
一般教養(学際的教養)	科学技術と社会(2015)	講義	4.90	2.96	4.06	4.18	4.20
一般教養(学際的教養)	科学技術と社会(2016)	講義	4.90	3.06	4.02	4.13	4.12
一般教養(学際的教養)	科学技術と社会(2017)	講義	4.90	2.97	4.04	4.15	4.10
一般教養(学際的教養)	科学技術と社会(2018)	講義	4.91	3.03	4.15	4.24	4.19
一般教養(学際的教養)	科学技術と社会(2019)	講義	4.91	3.15	4.24	4.32	4.32
一般教養(学際的教養)	環境と人間(2015)	講義	4.86	2.87	4.00	4.13	4.07
一般教養(学際的教養)	環境と人間(2016)	講義	4.87	2.74	4.05	4.17	4.14
一般教養(学際的教養)	環境と人間(2017)	講義	4.86	2.81	4.07	4.16	4.14
一般教養(学際的教養)	環境と人間(2018)	講義	4.83	2.77	4.15	4.24	4.24
一般教養(学際的教養)	環境と人間(2019)	講義	4.87	2.71	4.22	4.31	4.31
一般教養(学際的教養)	食と生命(2015)	講義	4.83	2.35	4.07	4.30	4.31
一般教養(学際的教養)	食と生命(2016)	講義	4.86	2.46	4.13	4.34	4.39
一般教養(学際的教養)	食と生命(2017)	講義	4.85	2.35	4.07	4.29	4.31
一般教養(学際的教養)	食と生命(2018)	講義	4.85	2.33	4.15	4.29	4.30
一般教養(学際的教養)	食と生命(2019)	講義	4.88	2.82	4.29	4.43	4.46
専門基礎	理系基礎(2015)	講義	4.86	3.33	3.92	3.96	3.97
専門基礎	理系基礎(2016)	講義	4.86	3.45	3.85	3.83	3.87
専門基礎	理系基礎(2017)	講義	4.82	3.54	3.79	3.77	3.79
専門基礎	理系基礎(2018)	講義	4.83	3.52	4.02	4.00	4.04
専門基礎	理系基礎(2019)	講義	4.86	3.35	4.20	4.25	4.35

②語学教育科目の結果について

図表Ⅲ-6は「語学」の質問紙を用いた外国語科目の平均値である。「英語」「日本語」の2つの分野のそれぞれに含まれる授業科目の評価の平均値を表している。Q1の出席は4.5を超えており良好である。Q2の授業外学習については、前々年度・前年度に比べ回復傾向にある。また、それ以外の項目も4.0をすべて超えており大変良好な状況である。

英語分野については、2017年度よりカリキュラム改編を行っており、2017年度以降の経年変化の推移を注視していく必要がある。

図表Ⅲ-6 共通教育の語学教育科目における学生授業評価結果（2015～2019年度）

系列	分野	授業区分(質問紙)	Q1出席	Q2授業外学習	Q8学習目標達成	Q9理解	Q10満足
英語	英語(2015)	語学	4.77	3.49	4.21	4.35	4.43
英語	英語(2016)	語学	4.78	3.56	4.18	4.33	4.40
英語	英語(2017)	語学	4.81	2.95	4.23	4.43	4.47
英語	英語(2018)	語学	4.81	3.02	4.25	4.44	4.45
英語	英語(2019)	語学	4.84	3.18	4.31	4.50	4.51
専門基礎	日本語(2015)	語学	4.40	3.24	4.52	4.71	4.73
専門基礎	日本語(2016)	語学	4.59	3.35	4.54	4.70	4.68
専門基礎	日本語(2017)	語学	4.59	3.45	4.57	4.70	4.70
専門基礎	日本語(2018)	語学	4.57	3.45	4.38	4.56	4.59
専門基礎	日本語(2019)	語学	4.64	3.53	4.55	4.66	4.69

③演習・実験・実習系科目の結果について

図表Ⅲ-7は「演習・実験・実習」の質問紙を用いた授業の平均値である。共通教育のうちこのタイプに当てはまるものは、「理系基礎(実験)」分野の実験科目である。Q2の授業外学習については4.58と非常に高い。また、それ以外の項目も4.0をすべて超えており大変良好な状況である。

図表Ⅲ-7 共通教育の実験系科目における学生授業評価結果（2015～2019年度）

系列	分野	授業区分(質問紙)	Q1出席	Q2授業外学習	Q9学習目標達成	Q10理解	Q11満足
専門基礎	理系基礎(実験)(2015)	演習・実験実習	4.94	4.49	4.33	4.42	4.47
専門基礎	理系基礎(実験)(2016)	演習・実験実習	4.95	4.43	4.44	4.45	4.48
専門基礎	理系基礎(実験)(2017)	演習・実験実習	4.92	4.40	4.31	4.33	4.28
専門基礎	理系基礎(実験)(2018)	演習・実験実習	4.96	4.43	4.39	4.43	4.44
専門基礎	理系基礎(実験)(2019)	演習・実験実習	4.97	4.58	4.43	4.51	4.57

2. 遠隔講義に関するアンケート結果

【趣旨】新型コロナウイルス感染症の影響で、新年度早々から遠隔講義の実施を余儀なくされている中で、現在の遠隔講義の受講状況及び実施状況を把握することを目的に、「遠隔講義に関するアンケート(学生用)(教員用)」を実施した。本アンケート調査結果については、本学の遠隔講義の改善に役立てるとともに、新型コロナウイルス感染症終息後の遠隔講義の有効活用を視野に入れた大学教育の更なる充実に活かす。

【回答対象者】学部学生(正規学生)、全教員(非常勤講師を含む)

【対象授業科目】学士課程教育(共通教育及び専門教育)における授業科目

【実施期間】2020年6月12日(金)～26日(金)

【実施方法】修学支援システムにおけるポータルを通じたアンケート実施(無記名)

【学生回答数・回答率】5,004人、57.8%(5,004/8,659人)

【学生回答内容の要点】

要点1 1年生から4年生にかけて、「①修学支援システムによる授業資料配布・課題提出(動画配信を含む)」「②Moodleによる授業資料配布・課題提出(動画配信を含む)」「④Zoomによるオンライン対面授業」での受講が大半を占める。1年生については「③遠隔講義ポータルの動画配信システムによる講義動画視聴」での受講も一定の割合を占める。

要点2 レポート課題の「量」の負担を感じる学生が多く、学年が下がるほど、負担感が増している。

要点3 遠隔講義に関する満足度は、学年が上がるほどに高い。1年生から3年生にかけて、「あまり満足していない」「全く満足していない」という学生が2割程度存在する。

要点4 「オンデマンド型授業」を希望する学生が各学年4割～5割程度、「リアルタイム型授業」を希望する学生が各学年2割～3割程度の割合である。

要点5 1年生では「通常の対面授業」を希望する割合が高いが、学年が上がるごとに、「遠隔講義」を希望する割合が増えている。

要点6 遠隔講義の受講環境について、9割近くの学生が「問題は感じていない」「あまり問題は感じていない」と感じている。ただし、学年が下がるほど、「多少問題を感じている」「非常に問題を感じている」学生の割合が微増している。

要点7 「インターネットに接続できる環境がない」と答える学生は数えるほどしかおらず、7割程度の学生が「自宅に、常時接続環境(データ通信量を気にせず接続できる環境)がある」状況であり、「スマホなどインターネットに接続できる端末を所持している」と答える学生が2割程度いる。

【教員回答数・回答率】 527 人、常勤 46.8% (465/993 人)、非常勤 14.0% (62/443 人)

【教員回答内容の要点】

要点 1 共同獣医学部以外は、ほとんどの教員が遠隔講義を行ったことがなかった。

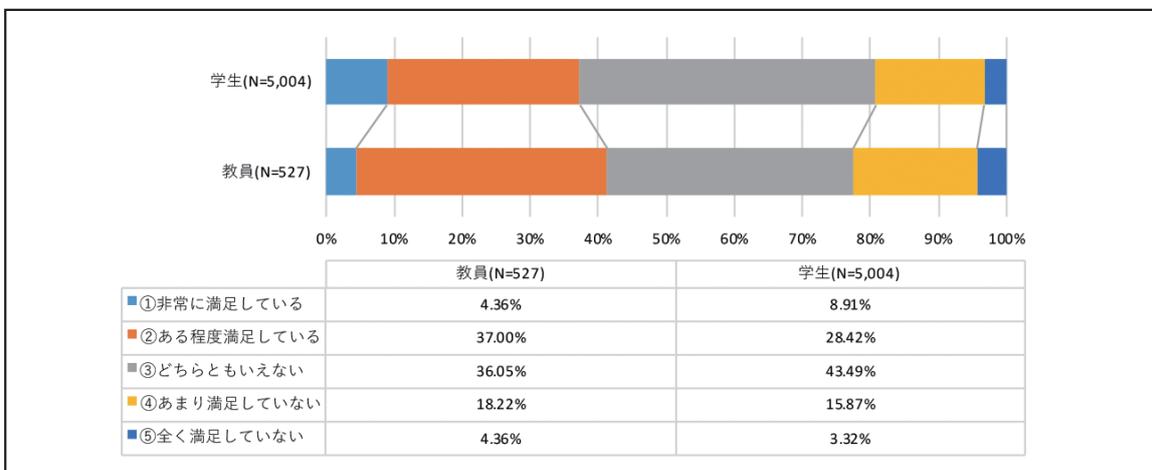
要点 2 全般的に、「修学支援システムによる授業資料配布・課題提出（動画配信を含む）」及び「Zoom によるオンライン対面授業」が主流であるが、理学部・工学部・農学部・国際総合科学部では「Moodle による授業資料配布・課題提出（動画配信を含む）」の比率が高い。共同獣医学部は独自のシステム利用のため、「その他」の比率が高い。

要点 3 遠隔講義の実施について「非常に満足している」比率は全般的に低い。人文学部、医学部、農学部、共同獣医学部では「ある程度満足している」比率が半数程度である。教育学部では「あまり満足していない」「全く満足していない」比率が高い。

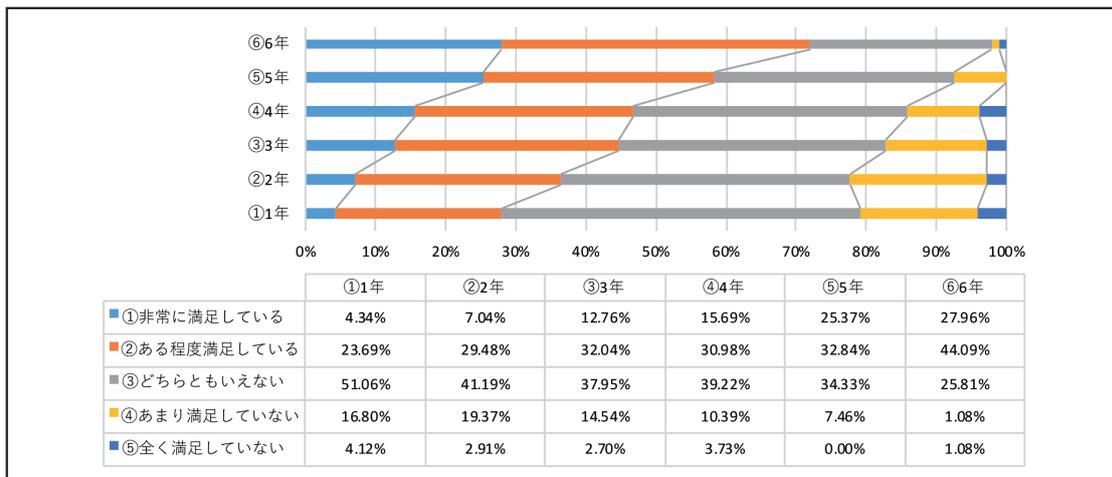
要点 4 教育学部、理学部、共同獣医学部、機構・研究所・センターほか「オンデマンド型授業」が実施しやすいと回答する比率が高く、それ以外の学部等は「リアルタイム型授業」が実施しやすいと回答する比率が高い。特に、「オンデマンド型授業」では共同獣医学部、「リアルタイム型授業」では経済学部、理学部、工学部、農学部、国際総合科学部の比率の高さが目立つ。

要点 5 全般的に「大いに利点がある」と回答する比率は低いが、概ね半数以上が「利点がある」と感じている。教育学部、経済学部、国際総合科学部、非常勤講師では「欠点が多い」と感じている教員がかなりの比率を占める。

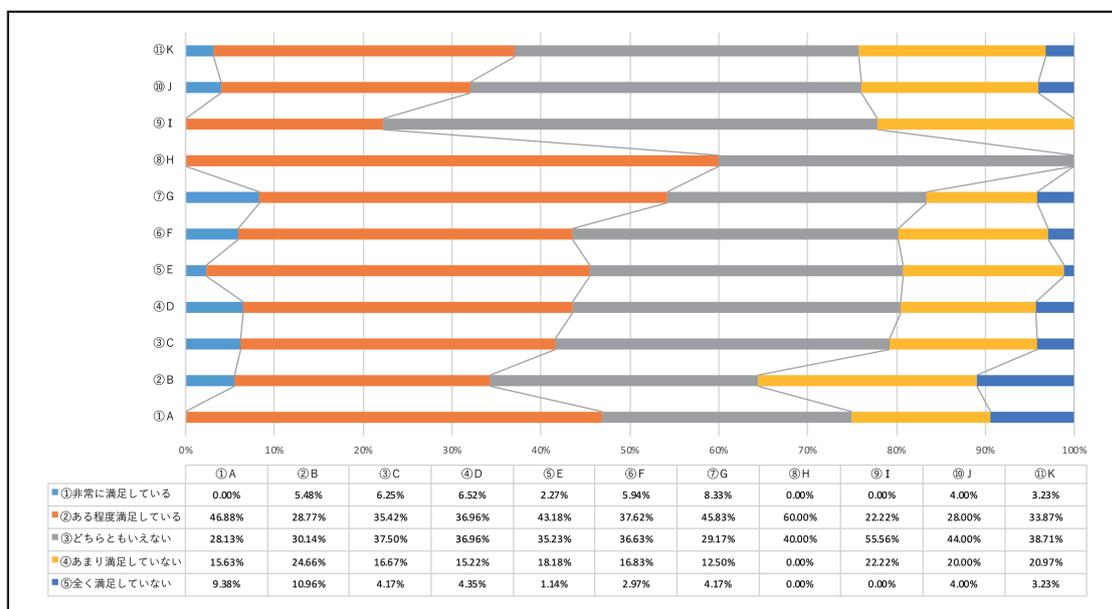
要点 6 医学部、工学部、農学部、共同獣医学部では「問題は感じていない」「あまり問題は感じていない」比率が 50%を超えているが、教育学部、国際総合科学部では「非常に問題を感じている」比率が大きい。



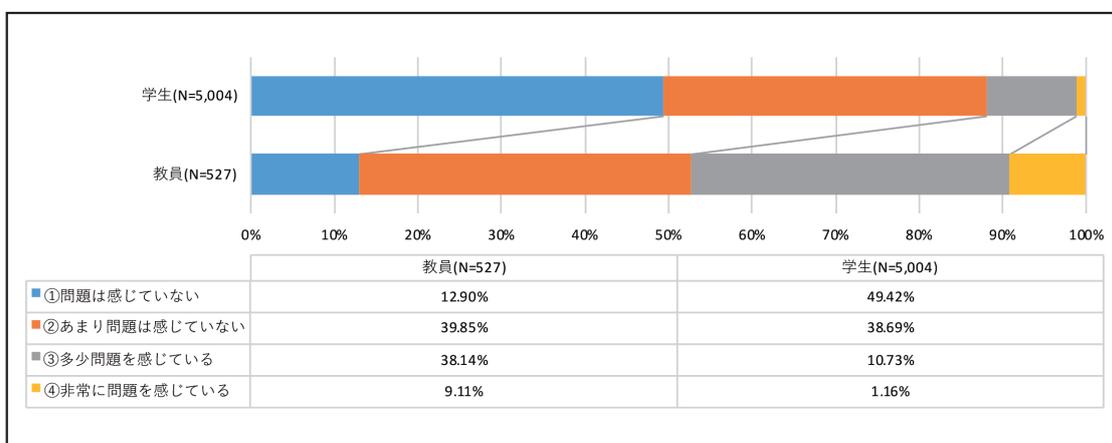
図表 III - 8 遠隔講義の満足度（全体）



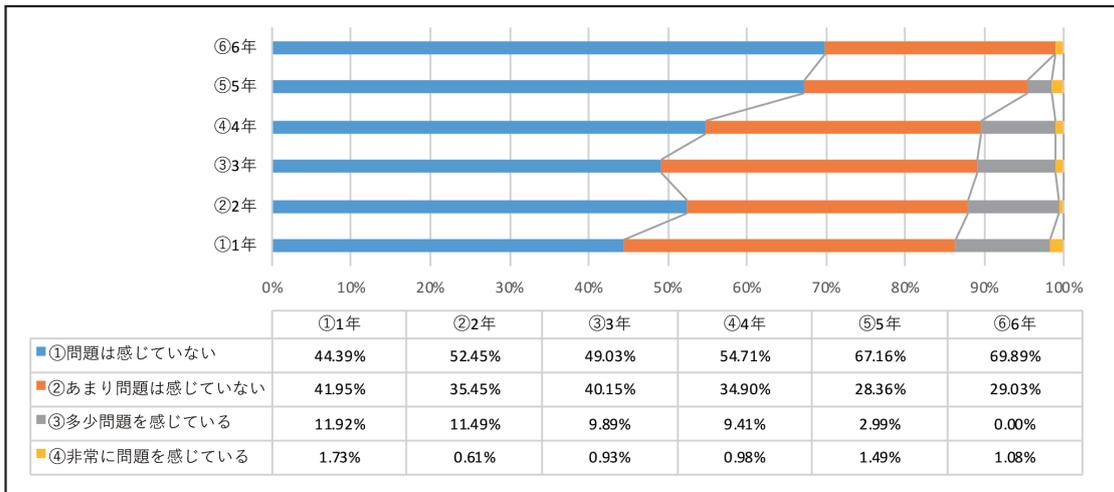
図表Ⅲ - 9 遠隔講義の満足度（学生）（学年別）



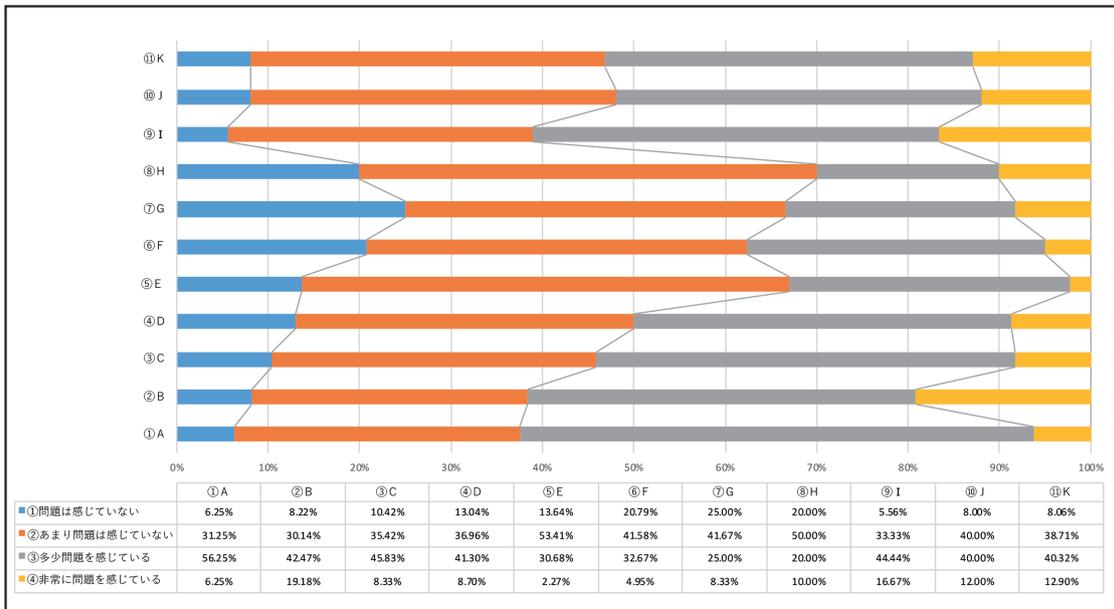
図表Ⅲ - 10 遠隔講義の満足度（教員）（部局別）



図表Ⅲ - 11 遠隔講義を受講（実施）する環境（全体）



図表Ⅲ - 12 遠隔講義を受講（実施）する環境（学生）（学年別）



図表Ⅲ - 13 遠隔講義を受講（実施）する環境（教員）（部局別）

V

参 考 资 料

V 参考資料

(『教学マネジメント指針』(中央教育審議会大学分科会)別紙2・3)

別紙2

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報について

「Ⅲ 学修成果・教育成果の把握・可視化」関係

以下の表に掲げる情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするためのエビデンスとして使用可能な、学修成果・教育成果に関する情報である。

- これらの情報について、「卒業認定・学位授与の方針」の各項目にひも付けて整理し、分かりやすい形でまとめることが考えられる(別紙1参照)。
- これらの情報や学生の学修履歴・活動履歴を体系的に蓄積・収集し、大学のみならず一人一人の学生が様々な形で自身が身に付けた資質・能力のエビデンスとして活用できるようにするために、学修ポートフォリオの活用等が効果的に機能するものと考えられる。また、学修ポートフォリオに蓄積された学修成果・教育成果に関する情報をエビデンスとして用いて、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得状況を評価することも考えられる。
- なお、これらの情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報として考えられるものをあくまで例として示したものである。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、これらの情報(特に(2)に分類されたもの)の収集の必要性・重要性は異なるものと考えられる。
- 本表を参考としつつ、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で、学位プログラムの内容やその学修目標にに応じた学修成果・教育成果の把握・可視化や、そのために必要な情報の策定・開発が進められることが期待される。

(1) 大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において学内で収集可能と考えられるものの例

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
各授業科目における到達目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて設定された個々の授業科目の到達目標をどの程度の水準で達成できているかを明らかにする 学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得してゆく過程を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が単位を修得した授業科目に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 授業科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評価の分布状況 学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け 個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 (これらを組み合わせて分析することで、学生が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力をどの程度満たしているかを一定程度説明することができる。) 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスの収集 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
学位の取得状況	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、個々の授業科目の履修の結果として、「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が取得した学位に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 学位の名称、学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力及び当該学生が属する学位プログラムにおいて当該学位を取得するために要する平均年数 学生が学位取得に要した年数及び上記平均年数との比較 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与履歴を収集
学生の成長実感・満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けているか等に関する学生の主観的な評価を明らかにする 大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の平均値 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する個々の学生の主観的な評価 	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法									
<p>進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学が、進学や就職等を希望する学生に対して進路を保証できているかを明らかにする 大学が「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される人材育成を行っているか否かを、進学先の大学院や就職先の企業等における評価と対照することを通じて明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の進路（進学、就職等）に対する希望状況 学位プログラム修了者の進路（進学先や就職先等）及びその全体状況（修了者の総数を分母とする進路毎の割合等） 特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある場合には、実際の進路動向との一致の程度 	<ul style="list-style-type: none"> 進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析 									
<p>修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率</p>	<ul style="list-style-type: none"> 厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合（標準年限期間内に学位を取得していない者については、取得に至っていない原因毎の数と割合） ある学位プログラムにおいて学位を取得するために要する平均年数 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与履歴を収集 									
<p>学修時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の時間及び平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が授業内外それぞれ学修に費やした時間の平均値 ①）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間の平均値 ②） 個々の学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間数 ③）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間 ④） 上記①及び②、①及び③並びに③及び④の比較 <p><参考></p> <table border="1" data-bbox="821 719 906 1220"> <thead> <tr> <th></th> <th>全体</th> <th>個人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実測時間</td> <td>①（平均値）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>想定時間</td> <td>②（平均値）</td> <td>④</td> </tr> </tbody> </table>		全体	個人	実測時間	①（平均値）	③	想定時間	②（平均値）	④	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じて収集 (※) 今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> 学修時間の集計単位：1時間単位での把握 集計期間の選定：試験直前期や長期休暇期間などを除く平均的な一週間における学修時間 (※) 学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・教育成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
	全体	個人										
実測時間	①（平均値）	③										
想定時間	②（平均値）	④										

(2) 教学マネジメントを行う上で各大学の判断の下で収集することが認定される情報

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
<p>「卒業認定・学位授与の方針」に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目における到達目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の科目により直接的に評価することができるものをどの程度の水準で備えているかを明らかにする ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち左記の科目により直接的に評価することができるものを獲得してゆく過程を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が単位を修得した左記の授業科目に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> ・科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評価の分布状況 ・学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ・個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 ・左記の資質・能力の取得状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
<p>卒業論文・卒業研究の水準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けることができるかを明らかにする ・専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生のような活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文・卒業研究に対する評定により直接的に測定することができる「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る資質・能力 ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定の分布状況 ・個々の学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定 ・卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生のような活動を通じて、「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る資質・能力以外の資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力の達成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力との関係の整理 ・卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評定（例えば、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力を中心として、これらに関連するルーブリック等を用いて評価したものなど） （※成果物に対する評定に加え、卒業論文作成・卒業研究実施の過程に対し適切に評価することも重要。）
<p>アセスメントテストの結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該アセスメントテストにより測定しているかを明らかにする ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けていることができるかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントテストにより測定することができる資質・能力 ・上記の資質・能力との関係（アセスメントテストにより測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等） ・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・個々の学生のアセスメントテストの受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト）の特定 ・大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集 （※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するためにアセスメントテストを利用する場合、大学は、当該テストの目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。）

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
<p>語学力検定等の学外試験のスコア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該試験により測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けていることができるかを明らかにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外試験により測定することができる資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（学外試験により測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・ 個々の学生の学外試験の受験状況、その結果及び上記平均値との比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる学外試験（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき学外試験）の特定 ・ 大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集 <p>（※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するために学外試験を利用する場合、大学は、当該試験の目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。）</p>
<p>資格取得や受賞、表彰等の状況</p>	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該資格の取得のために求められる資質・能力を一定の水準で身に付けていることができることを明らかにする ・ 当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力の一部を一定の水準で身に付けていることができることを明らかにする <p><受賞、表彰等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が、当該受賞、表彰等のために求められる資質・能力を高い水準で身に付けていることができることを明らかにする ・ 当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けていることができるかを明らかにすることができる 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格の取得により証明される資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生における資格取得の状況 ・ 個々の学生の資格取得の状況 <p><受賞、表彰等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受賞、表彰等により証明される資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・ 同一の学位プログラムに属する学生のそれぞれの受賞・表彰等の状況 ・ 個々の学生の受賞・表彰等の状況 	<p><資格取得の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特定 ・ 上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <p><受賞、表彰等の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受賞や表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる、又は当該資質・能力のエビデンスの賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
<p>卒業生に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、実際の卒業生に対する雇用主や進学の指導教員からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の雇用主や進学の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
<p>卒業生からの評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役立っているかを、進学・就職から一定期間経過後の卒業生からの評価により明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生が、学位プログラムを通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を習得することができたか ・ 進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役立っているかについての、卒業生からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

- 以下の表に掲げる情報は、大学における学修成果や教育成果、これらを保証する条件に関する情報であり、(1)「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例」と(2)「学修成果・教育成果を保証する条件に関する情報の例」の2項目について、それぞれ①「大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの」と②「教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報」に分類している。
- これらの情報は、公表が考えられるものをあくまで例として示したものである。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、特に②の情報の収集・公表の必要性・重要性は異なるものと考えられる。
- これらの項目も参考としつつ、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で情報公表が進められることが期待される。
- これらの情報のうち、特に(1)①に分類されるものについては、社会からその公表が強く期待されている学修成果・教育成果に關係するものであることから、早期に情報公表が進められることが強く期待される。
- 情報の公表に当たっては、利用者が適切に情報を取り扱うことができるようにする観点から、大学として理解を促進するための適切な分析や解説を、その根拠と併せて付するとともに、利用者の便宜に配慮した方法で行うことが求められる。
- 以下、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)を「規則」、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)を「基準」とそれぞれ略記する。

(1) 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
①大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの	<ul style="list-style-type: none"> ①公表の意義 <ul style="list-style-type: none"> 学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得し、卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を達成してゆく過程について、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ②公表することが考えられる内容 <ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属する学生の単位修得に関する以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 入学年度別・年度毎の平均履修単位数(※) 入学年度別・年度毎の平均修得単位数(※) (※)必修科目、選択科目及び自由科目で細分化することも考えられる。 (学修時間や学事履の柔軟化の状況、履修単位の登録上限設定の状況、GPAの活用状況と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：基準第32条 	<ul style="list-style-type: none"> ③公表する情報の収集等の方法 <ul style="list-style-type: none"> 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
各授業科目における到達目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ①公表の意義 <ul style="list-style-type: none"> 個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えた学生が何人卒業しているかを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ②公表することが考えられる内容 <ul style="list-style-type: none"> 学位プログラムが授与した学位の名称と授与者の数 当該学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力 関連する法令等：規則第172条の2第1項第1号、第4号及び第6号 	<ul style="list-style-type: none"> ③公表する情報の収集等の方法 <ul style="list-style-type: none"> 学位授与履歴を収集
学生の成長実感・満足度	<ul style="list-style-type: none"> ①公表の意義 <ul style="list-style-type: none"> 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けているか等に関する学生の主観的な評価について、全体的な状況を明らかにする 大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ②公表することが考えられる内容 <ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に對する主観的な評価の年度毎の平均値及び分布その他の全体的な状況 	<ul style="list-style-type: none"> ③公表する情報の収集等の方法 <ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じた収集

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
<p>進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進学や就職等を希望する学生の進路状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎の以下の情報 <ul style="list-style-type: none"> 就職を希望した学生数を分母とする就職者の割合 学生の主な就職先 進学を希望した学生数を分母とする進学者の割合 学生の主な進学先 特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある学位プログラムにおいては、当該プログラムの卒業生数を分母とする当該進路への就職者の割合及び主な就職先 該進路に対する評価や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益 関連する法令等：規則第172条の2第1項第4号 関連する調査等：「大学等卒業生の就職状況調査」 	<ul style="list-style-type: none"> 進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析
<p>修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率</p>	<ul style="list-style-type: none"> 厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする 履修単位の登録上限設定の状況やGPAの活用状況と組み合わせ分析することで、大学が、密度の高い学修を可能とする環境を提供していることや、厳格な成績評価に基づく質の高い教育を提供していることを示すことができる重要な情報の一つとなる 	<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、退学者、退学者の数と割合（公表の際には、単にこれら情報のみを公表するのではなく、学位プログラムのカリキュラムの在り方や、履修単位の登録上限設定の状況、GPAの活用状況、留年の位置づけといった修業期間・成績評価に関連する情報や、積極的な進路変更（他大学への転学や他学部への転部など）の有無、退学の理由（大学に起因するものと大学に起因しないものの別など）も踏まえた分析を付すことが望ましい。） 関連する法令等：規則第172条の2第1項第4号 関連する調査等：「学校基本調査」 	<ul style="list-style-type: none"> 教務履歴や学校基本調査の調査過程において収集
<p>学修時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が、当該学位プログラムに関連する授業内外それぞれの学修に費やした時間の平均値及び分布その他の全体的な状況（各授業科目における到達目標の達成状況や履修単位の登録上限設定の状況と併せて分析を行い、公表することが有益） 関連する法令等：基準第21条 	<ul style="list-style-type: none"> 学生へのアンケート調査を通じて収集 (※) 今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> 学修時間の集計単位：1時間単位での把握 集計期間の選定：試験直前期や長期休暇期間などを除く平均的な一週間ににおける学修時間 (※) 学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・学修成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集

¹ 「平成30年度大学等卒業生の就職状況調査（4月1日現在）」 https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/05/1416816.htm

² https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
<p>「卒業認定・学位授与の方針」に定められた「卒業認定・学位授与の方針」に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができることのできる到達目標の達成状況</p>	<p>学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の科目により直接的に評価することができ、全体の状況を明らかにする</p> <p>学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち左記の科目により直接的に評価することができ、全体の状況を明らかにする</p> <p>学生が、学位プログラムが提供する教育の集大成として、どのようなテーマの卒業論文作成・卒業研究実施に取り組んでいるかを明らかにする</p> <p>学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けていることができるかについて、全体的な状況を明らかにする</p> <p>専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにすることができる</p>	<p>左記の授業科目の科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準及び成績評価手法</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の授業科目により直接的に測定することができるものの達成状況に関する全体的な状況</p>	<p>・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集</p>
<p>卒業論文・卒業研究の水準</p>	<p>学生が、学位プログラムが提供する教育の集大成として、どのようなテーマの卒業論文作成・卒業研究実施に取り組んでいるかを明らかにする</p> <p>学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けていることができるかについて、全体的な状況を明らかにする</p> <p>専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにすることができる</p>	<p>卒業論文・卒業研究の代表的なテーマの人数と割合</p> <p>卒業論文・卒業研究の代表的なテーマ</p> <p>同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する評価基準（専門教育に係る資質・能力やその他の資質・能力に対する基準を含む）</p> <p>卒業論文・卒業研究に対する評価の平均値及び分布その他の全体的状況</p>	<p>・学内調査による代表的なテーマの収集</p> <p>・卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係</p> <p>・卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評価基準・評価手法の収集</p>
<p>アセスメントテストの結果</p>	<p>学生が、当該アセスメントテストにより測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得できているかについて、全体的な状況を明らかにする</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにすることができる</p>	<p>アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（アセスメントテストにより測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等）</p> <p>同一の学位プログラムに属する学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況その他の全体的な状況</p>	<p>・アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理</p> <p>・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト）の特定</p> <p>・大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集</p>
<p>語学力検定等の学外試験のスコア</p>	<p>学生が、当該試験により測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得できているかについて、全体的な状況を明らかにする</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにすることができる</p>	<p>学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（学外試験により測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等）</p> <p>同一の学位プログラムに属する学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況その他の全体的な状況</p>	<p>・学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理</p> <p>・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる学外試験（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき学外試験）の特定</p> <p>・大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集</p>

② 教学マシメントを確立する上で各大学の判断の下で収集するものが想定される情報

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
<p>資格取得や受賞、表彰歴等の状況</p>	<p>＜資格取得の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該資格の取得のために求められる資質・能力を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合、学生が、当該資質・能力の一部を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする <p>＜受賞、表彰歴等の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が、当該受賞、表彰等のために求められる資質・能力を高い水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる 	<p>＜資格取得の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるのか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における資格取得者の人数 <p>＜受賞、表彰歴等の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受賞、表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における受賞者・表彰者等の人数や具体的な例 	<p>＜資格取得の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得により証明することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特長 ・上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <p>＜受賞、表彰歴等の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の賞や表彰制度等の受賞や表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる賞や表彰制度等の特定 ・上記の賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
<p>卒業生に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、卒業生に対する雇用主や進学先の指導教員からの評価やその他の全体的な状況（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の雇用主や進学先の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
<p>卒業生からの評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役立っているかについて、全体的な状況を、進学・就職から一定期間経過後の卒業生からの評価により明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得にあたって学位プログラムが果たした役割について、卒業生からの評価 ・進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役立っているかについての、卒業生からの評価（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生に対する評価と併せて分析を行い、公表することが有益） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

(2) 学修成果・教育成果を保証する条件に関する情報の例

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
<p>入学選抜の状況</p>	<p>・入学選抜の方法の明示や試験問題及び解答の公表により、「入学受入れの方針」に即し、大学として求める資質・能力を有する者を入学者として適切に選抜していることを明らかにする</p> <p>・入学選抜の方法や合否判定の方法・基準等を明示すること、公正かつ受当な方法により、多面的かつ総合的な評価・判定に基づき入学選抜を実施していることを明らかにする</p>	<p>・各学位プログラムにおける個別学力検査の実施教科・科目、入試方法、その他入学選抜に関する基本的な事項</p> <p>・合否判定の方法や基準</p> <p>・試験問題及びその解答</p> <p>・入試方法の区分に応じた受験者数、合格者数及び入学者数等</p> <p>(各年度における「大学入学選抜実施要項³⁾」に基づく公表を実施することが想定される。)</p>	<p>・入試情報の収集</p>
<p>教員一人あたりの学生数</p>	<p>・学生数に対して十分な教員を確保することで、密度の濃い授業や丁寧な履修指導が可能な環境であることを明らかにする</p>	<p>・大学全体としての教員と在籍する学生の人数比</p> <p>・学位プログラム毎の、専任教員と在籍する学生の人数比。(公表の際は、単に人数比を公表するのではなく、クラスサイズや専任教員以外の教員・T A (ティーチング・アシスタント)・R A (リサーチ・アシスタント)等の活用状況などを踏まえた分析を付することが望ましい。)</p> <p>関連する法令等：規則第172条の2第1項第3号</p> <p>関連する調査等：「学校基本調査」</p>	<p>・人事記録等(学校基本調査を活用することも考えられる)</p>
<p>学事歴の柔軟化の状況</p>	<p>・入学・卒業時期の選択肢や自由度を明らかにすること、密度の濃い主体的な学修が可能とする環境や、留学等との接続が容易な環境であることを明らかにする</p>	<p>・大学としての学事歴の状況(具体的な授業期間など)(学位プログラムにより異なる場合は学位プログラム毎の状況)</p> <p>(各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益)</p>	<p>・学事歴に関する学内規定の確認</p>
<p>履修単位の登録上限設定の状況</p>	<p>・履修単位の登録上限に関する制限やその例外を明らかにすること、大学が、密度の濃い主体的な学修を可能とすつ、意欲・能力のある学生には更なる学修を可能とする環境を提供していることを明らかにする</p>	<p>・履修単位の登録上限制度の有無</p> <p>・制度の具体的な内容(上限単位数など)</p> <p>・例外的具体的な要件(成績要件と追加登録が可能な単位数など)</p> <p>(各授業科目における到達目標の達成状況や学修時間と併せて分析を行い、公表することが有益)</p> <p>関連する法令等：基準第27条の2</p>	<p>・学内規定の確認</p>
<p>授業の方法や内容・授業計画(シラバスの内容)</p>	<p>・学生と教員との契約書ともいえるシラバスについて、適切な到達目標や講義方法、講義計画、成績評価基準を定めると共に、学生の主体的な学びを助ける事前事後学修課題を提示すること、大学が、個々の授業科目を「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて適切に設計していることを明らかにする</p>	<p>・大学としてのシラバス作成に関する方針(どのような項目をどのような観点から記載しているかを説明するもの)</p> <p>・個々の授業科目のシラバス(特に必修科目や選択科目については、可能な範囲で学位プログラム毎に編纂されること望ましい)</p> <p>(カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益)</p> <p>関連する法令等：規則第172条の2第1項第5号、基準第25条の2第1項</p>	<p>・学内におけるシラバス作成に関する方針の確認</p> <p>・電子シラバスへの登録等を通じたシラバスの収集</p>
<p>早期卒業や大学院への飛び入学の状況</p>	<p>・意欲や能力を備えた学生の多様な学修ニーズに対応できる選択肢が複数存在することを明らかにすると共に、当該選択肢の活用状況を明らかにする</p>	<p>・早期卒業及び大学院への飛び入学に関する要件</p> <p>・学位プログラム毎の早期卒業者・大学院への飛び入学者の人数及び割合</p>	<p>・早期卒業及び大学院への飛び入学に関する学内規定の確認</p> <p>・教務履歴の収集</p>

① 大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの

3 「令和2年度大学入学選抜実施要項について(通知)」(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/___icsFiles/afilefieldfile/2019/06/05/1282953_001_1_1.pdf)

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
<p>FD・SDの実施状況</p> <p>GPAの活用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業認定・学位授与の方針」に基づき教育の成果を最大化するため、当該方針に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義し、これを踏まえて最適なFD・SDを実施していることを明らかにする 学位プログラム毎に、所属する学生それぞれのGPAの平均値等を明らかにすることで、学生が各授業科目に定められた到達目標に全体的にどの程度到達しているかという学位プログラムの全体的な教育の達成状況を明らかにする GPAを、留年や退学の勧告等の基準や、履修指導・学修支援のための基礎情報として用いていることを明らかにすることで、「卒業認定・学位授与の方針」に基づき、質の高い教育を提供していることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像 大学として実施しているFD・SDの内容（対象別の内容や頻度、参加率（どのような立場の者がどのような内容のFD・SDに参加したかが分かることが望ましい）など） 他大学や教育関係共同利用拠点との連携等によりFD・SDを実施している場合は、連携して実施するFD・SDの概要（連携先の名前や、FD・SDの内容、頻度など） FD・SDを担当する組織・部局を有する場合は、その概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど） 関連する法令等：基準第25条の3、第42条の3 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」⁴ 	<ul style="list-style-type: none"> FD・SDの内容の収集
<p>カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえたカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを明らかにすることで、各学位プログラムが、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成していることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学全体としてのGPAの算定方法（評語とGPAとの対応関係や、不可となった科目や履修登録を取り消した科目の扱い、など） 学位プログラム毎のGPAの平均値及び分布（入学年度や学期などの観点から分類した数値も併せて公表することが望ましい） GPAの活用状況（以下のような活動等の判断基準としてGPAを用いているか否か） <ul style="list-style-type: none"> 学生に対する個別の学修指導 奨学金や授業料免除対象者の選定 履修上限単位制限の解除 進級・卒業判定、退学勧告 大学院入試の選抜 早期卒業や大学院への早期入学 （各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益） 関連する法令等：規則第172条の2第1項第6号 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」 	<ul style="list-style-type: none"> GPAの算定方法に関する学内規定の確認 教務履歴などより収集
		<ul style="list-style-type: none"> 学位プログラム毎のカリキュラムマップ・カリキュラムツリー（※） （※）カリキュラムマップやカリキュラムツリー以外の方法で、学位プログラムのカリキュラムにおいて、「卒業認定・学位授与の方針」との関係で過不足なく科目が配置されていることを検証している場合は、当該方法。（授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益） 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップ・カリキュラムツリー等の収集

② 教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報

⁴ 「大学における教育内容等の改革状況について（平成28年度）」 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daiigaku/04052801/1417336.htm

情報	①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
ナンバリングの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 大学が、ナンバリングの実施を通じて、学位プログラムを構成する個々の授業科目の教育課程上の水準や学位プログラム全体の体系的な整理された適切なカリキュラムを編成するための取組を行わっていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としてのナンバリングに関する方針（どのような分類基準に基づいてナンバリングを実施しているかを説明するもの） 学位プログラム毎のナンバリングを行った授業科目一覧（授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況との関係も併せて公表することが有益） 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としてのナンバリングに関する方針の確認 ナンバリング済みの授業科目一覧の収集
教員の業績評価の状況	<ul style="list-style-type: none"> 大学が、研究活動のみならず教育活動における業績を評価する仕組みを整え、教員が積極的に教育活動や教育改善に取り組む意欲を持つことができる環境を整えていることを明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての教員の業績評価に関する方針など 関連する法令等：規則第172条の2第1項第3号 	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての教員の業績評価に関する方針の確認
教学IRの整備状況	<ul style="list-style-type: none"> 教学マネジメントの基礎となる情報を収集する上で基礎となる教学IRについて適切な制度整備や人材育成を行っていることを明らかにすることで、教学マネジメントを行う体制を整えていることを明らかにする 	<ul style="list-style-type: none"> 大学として実施している教学IRの主な内容（分析事例の紹介や、教学IRをきっかけとする教学改善の事例の紹介など） 教学IRを担当する組織・部局の概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど） 教学IRに関する学内規則 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」 	<ul style="list-style-type: none"> 教学IRの主な内容の収集

教学マネジメント FACTBOOK 2020

発行 山口大学 教育・学生支援機構 教学マネジメント室 (YU-OTLM)
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
2021年3月 発行



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学